

## 『日本神道道統図』

### — 吉備系巫女神道とヤマト系神社・国家・教派神道の比較年表 — 旧吉備王国(郷里岡山県および兵庫県、広島県、山口県など山陽地方)系巫女神道・巫女歌道 令和新時代 最終協力版

平成9年 巫女、社家子女、歌道家子女らが歌書や神儒仏の秘伝奥義の岩崎への相伝を開始し、岩崎が継承と調査研究を開始  
平成23年7月6日 岩崎が本資料を起筆  
令和元年6月2日

著作権法および『岩崎純一全集』第6巻に基づき、協力者の著作部分に係る著作権の全部の岩崎への譲渡が完了したことをもって、本資料を公表するため、最も早期からの作成資料『旧派歌道・歌学の流派・家元・団体の総覧』の名称を『日本旧派歌道流派総覧』に変更し、これを母体として、本資料を含むその他の資料と合わせた『岡山県巫女特別協力資料』を設置  
令和元年8月14日 公開、令和元年8月22日 最終更新

#### 筆頭編著者：岩崎 純一

(岩崎純一学術研究所所長、財団事務局長、大学非常勤講師等)

編纂総本部：岩崎純一学術研究所(IJAI)

編纂作業：同上第二学堂(『岩崎純一全集』編纂学堂)第一学廊第一学館第四学庭

編纂作業補助：同上第二女子学堂(『岩崎純一全集』編纂女子学堂)第一女子学廊第一女子学館第〇女子学庭～第九女子学庭

#### 本資料群の編著者・協力者一覧

岩崎純一学術研究所(IJAI)  
岡山県巫女特別協力資料

(1)『日本神道道統図』(『全集』第14巻 別添資料)

(2)『吉備・ヤマト相関図』(『全集』第14巻 別添資料)

(3)『吉備巫女神道・ヤマト皇統相関系図』(『全集』第32巻 別添資料)

(4)『日本旧派歌道流派総覧』(『全集』第92巻 別添資料)

(5)『日本旧派歌道流派系統図』(『全集』第92巻 別添資料)

姉妹資料

『巫女神道比較表』(『全集』第14巻)

『巫女神道探訪記 - 日本のアニミズム感覚の源流を訪ねて -』(『全集』第14巻)

『大日本帝国陸軍歩兵第十連隊(岡山・鉄五四四八部隊)戦史調査資料』(『全集』第34巻)

岩崎純一学術研究所ウェブサイト  
(本資料群の掲載場所)

<https://iwasakiunichi.net/>

※ なお、本資料群は、上掲の巫女や歌道子女らが所属する社家や神社、岩崎が協力している女子寮の閲覧室の一部でも入手できる。また、岩崎が非常勤講師や特別講師を務める大学の講義でも、適宜使用する。

[参考文献\(岡山県巫女特別協力資料の全資料の参考文献\)](#)

Copyright (C) 2012-2019 岩崎純一  
All Rights Reserved.

## 岩崎純一学術研究所(IJAI)スタッフ

巫女(神道家・神道家子女)・歌道家子女スタッフ

本資料で解説しているスタッフ

一般スタッフ

序文 岩崎 純一 令和元年6月6日 筆

岩崎純一学術研究所(IJAI)は、本来は(現在も)岩崎純一個人や関係者の著作物の集合体である岩崎純一総合アーカイブ(IJCA)を統括管理する非法人のセルフアーカイビング機関である。

但し、所長・岩崎以外の主要スタッフはほとんどが女性であり、その多くが岩崎の出身地・岡山県の神道家・社家の巫女や歌道家の子女で占められる。このことは、岩崎と同郷であることに加え、IJCAの主要分野が人文系学問、とりわけ東洋哲学、日本思想、宗教学、精神病理学、心理学、和歌、古典・国文学であることによる。これらの巫女は、実際に(宮中祭祀以外の)現代の各神道関連祭祀に呼ばれて生活する立場であり、また岩崎も、和歌の実作によって巫女・歌道子女の文化維持に協力しているほか、一部の歌書や神道書・宗教書をこれらの巫女から託されている立場である。

しかしながら、現時点で私(岩崎)が交流することのできる巫女神道家の子女は、明治の巫女禁断令、世襲社家の禁令、天社神道禁止令などの陰陽道禁止令、修験道の禁令などの「淫祠邪教」弾圧の国策によって巫女、世襲社家、陰陽師、修験者などが壊滅的となった後も、密かにその神懸り神事、呪術、巫女舞、磐座祈祷、神剣演舞などを秘儀秘伝化・霊学化して生き残った人々に他ならない。そのほとんどは、女系の巫女神道家であり、歌道家を兼ねる。

しかも、これらの秘伝女系巫女神道のほとんどは、旧吉備王国の版図内(岡山県および山陽・瀬戸内海沿岸地域)に集中して残っている。そして、宮中祭祀には、一部の巫女を除いてほとんど呼ばれず、事実上、宮中参殿を禁じられている。これは、その吉備王国が、出雲と共に最後までヤマト王権・現皇統と戦って敗れた国であったことと無関係ではない。そのような巫女の怨念を根源とするシャーマニズムのみならず、男性教祖までもが天啓を受けたとしてシャーマン化した創唱宗教(黒住教、金光教)も、岡山、広島、山口で集中的に発生している。これらの傾向として、天照大神・天孫(すなわち皇統)信仰よりも、天之御中主神などの造化三神や国常立尊(すなわち天地開闢・宇宙創生の神々)信仰に立脚する教団が多いため、戦前には激しい弾圧を受けている。

世襲社家の禁令は、当然、帝王神道の伝承と神祇伯の座を担ってきた白川伯王家にも適用された。この時、その伯家神道の秘法を教派神道や民間団体に伝授して再興したのも、また岡山出身の高浜清七郎と巫女たちであった。現在、全国で秘伝される伯家神事秘法は、ほとんどが岡山・吉備・山陽の伯家神道を源流に持つ。巫女禁断令を嘆く中、憑霊状態で和歌を詠む狐憑きの少女に出会った本田親徳も、清七郎から伝授された秘法をもとに巫女・少女たちの憑霊を研究し、本田神道霊学(本田霊学)を大成した。

そこで、広義の日本神道と我々IJAIの吉備の巫女たちのルーツとを整理するため、本資料を巫女たちと共同で作成することとした。方法としては、一通り日本神道の全貌を図示した上で、IJAI巫女スタッフの系譜を書き込むものである。

また、所長・岩崎の神道観と神道史観も、概ね本資料の通りであると理解していただいて差し支えない。基本的に私は、太古日本・東アジアのアニミズム・シャーマニズム・巫女神道、そして故郷の吉備系神道に立脚した原始神道・古神道を信奉し、ヤマト王権(現皇統)傘下の神道では(吉備によく残る)物部・斎部・大中臣神道や一部の神儒仏習合思想、さらには中観思想・唯識思想と我が家系の曹洞禅を折衷した仏教哲学を、最も好む思想とする。一方で、戦後の神社本庁、一部の単立法人、神道政治連盟、日本会議などが神社観、神道観、天皇観、皇国史観を定義する現代の神社神道、および葬式・戒名仏教勢力が仏法を説く現代の仏教には、全く信用を置いておらず、祭祀・宗教・教学いずれの側面からも見るべきところなどないと痛感するものである。

	日本列島先占原住民、縄文人、太古弥生人(琉球民族、熊襲、卑人、アイヌ民族、出雲族、吉備族、毛野族)	非先占末期弥生人、朝鮮・百済系渡来人(天孫族、ヤマト王権連合、豪族、軍事貴族) : 狭義の「大和民族」	
	● 日本国民(広義の大和民族、戦前の大日本帝国の内地国民)		
建設した国家とその首長	古代筑紫、古代出雲、古代吉備など非ヤマト系古代王国(王、男王、女王)	ヤマト王権(大王)→大和朝廷(天皇・治天の君)→大日本帝国(王政復古、天皇大権・統治権総攬、立憲君主)→日本国(象徴天皇、事実上の立憲君主)	
支配層の民族血統	概ね先占渡来人(先土器時代人・縄文人)と太古弥生人・渡来人(三神・新羅系)の混血	概ね末期弥生人・渡来人(朝鮮・百済系)と左記弥生人との混血(現憲法下の選挙制確立以降は、為政者の血統不問。但し、天皇・皇族を除く。)	
	広義の日本神道		
現皇統(日本国)との関係	大王(のちの天皇)と異なる王を戴く王国を併いたのち、大和朝廷(現皇統)支配下に組み込まれたが、現在も異端(原始神道)として形質化し継承されている神道の系列 (但し、畿内も、ヤマト王権の侵入以前は巫女の王と巫女共同体による原始シャーマニズム世界。また逆に、ヤマト王権に取り込まれて中央家族化した吉備氏や和氣氏などは、男系神道に転向し、敬部の巫女神道と縁遠となった。)	大和朝廷(現皇統)自体の神道である、または大和朝廷(現皇統)支配下で継承されている神道の系列	
父母血統と系統	女系(母系)女王・巫女系神道 : 「神の道・惟神道(かんながらののみ)」「のちの神道」と「歌の道・巫女神楽」(のちの歌道)とは未だ不可分	男系(父系)男王・男性神職系神道 : 狭義の日本神道	
祭祀の主導者(神道流派の宗匠)	華羅巫女および巫女連合 (世襲巫女社家または地蔵巫女共同体) (華羅巫女は、女系一族の家長を兼ねる巫女、または男系男子で流れる男系一族の血統と無関係に流れる女系巫女)	女系男子(華羅巫女の男臣)	男系一族(神官家・社家)の男子官司・禰宜・禰宜(職後は禰に女性) : 巫女禁断令(1873)以後の狭義の日本神道(神社神道、皇室神道、國家神道、多くの教派神道)
祭祀の中心	神懸り神事(神人一体・シャーマニズム・神降ろし・憑依・化身型) 自ら日の巫女(卑弥呼)・シャーマンとして天之御中主神、国常立尊、天照大神、あるいはそれ以前の土着の女神となるものが真骨頂	奉納型祭祀(神人分離型の男性シャーマン道または巫女への神懸り依願型)	神懸り神事(神人一体・シャーマニズム・神降ろし・憑依・化身型) 奉納型祭祀、現世利益的参拝・参詣(神人分離型、金遣・仕事遣・健康・恋愛などに関する「神頼み」の形式) 皇民・国民による「参拝・参詣」の形式をとる神道
現在の日本国民に占める人口	巫女禁断令(1873)で意向は消滅、教派神道などに強制編入 明治政府公称人数: 0人、現在の実人数: およそ150人~200人 縄文系人等社会共同体から継統する女系女子の巫女神道・非神社神道が主体であったと考えられる。昔儀の巫女神道社家では、その祭祀を秘伝化させて伝承、互いに少しづつ異なるものの、基本的には古代吉備備前系国系の秘宝・秘儀を保持。	日本では少数 左記の巫女や右記の斎王がなくなった場合の祭祀の代行役が多い。	日本国の主流 9000万人~1億2000万人 (但し、血統はほぼ縄文・弥生混血。沖縄・北海道で縄文優勢、一方、旧羅曹氏族のみならず皇統および旧天孫・天神系氏族で末期弥生渡来系すなわち朝鮮・百済系優勢。) このうちほとんどの国民が明確な神道意識を持たず、同時に同程度の人口が事実上の仏教徒であると共に、仏教意識も神仏習合意識も持たず、無宗教であると自覚している。国学と現代の保守思想では、国柄・国体は万世一系・男系男子血統の大王(天武以降は天皇)が保証するものと見なされている。また、諸蕃(渡来系・朝鮮系)氏族は王権の中核を担い、皇別・神別氏族も大半が朝鮮系渡来系であった上、2001年には上皇陛下ご自身が前述の「韓国とのゆかり」を仰せられたにもかかわらず、朝鮮民族排斥の思想が見られるのが、現代日本の特徴である。

派第九道十流二派三統一日本と旧	和歌(古代歌謡~歌道)の担い手による分類	(1) 巫女神道・原始日本神道・古道歌道(縄文・弥生時代、列島先住日本人、太古の帰化渡来人)	(2) 斎王系・後期巫女神道系歌道(末期弥生時代、朝鮮系・百済系帰化渡来人)	(3) 神社神道・近代社格制度下の古代神社・古道歌道		
		(4) 山岳信仰・修験道・仏教・神仏習合歌道			(5) ヤマト王権・大和朝廷・現皇統勢力圏(大王・天皇の建立期から立憲君主制・象徴天皇制の現在に至るまで)の歌道	
		第十四巻での色分け。かつ、『日本旧派歌道流派総覧』の「流派の主体」に氏族を記載				
		↓↓ ほぼ上記そのまま		↓↓ 王朝・歌道宗匠血統圏から神道・宗教系統圏へ組み替え		
		↓↓ 『日本神道道統図(IJAI巫女・歌道子女スタッフ加入版)』				



<p>皇統以外の王統(女系巫女の王統)や神事秘法を伝承する神道の系譜である。天地開闢を担ったとされる造化三神・別天津神や神代七代への信仰を重視し、これら八百万の神々と、神々と一体化する神懸り神事を行う巫女・シャーマンら自身が神道を実行・主宰するものと見ており、天照大神直系の天孫とされるヤマトの王、すなわち天皇を「現人神」かつ神道の主宰者と見ることにはしばしば懐疑的で、主に明治政府、帝国憲法下の政府から激しい弾圧や禁令を受けた。</p> <p>吉備においては、現在も巫女舞、船座祈禱、神剣演舞などの神懸り神事を行う女系巫女・シャーマンどしどし互いに「神」と呼び合う一方、男系男王や男系社家については、「現人神」とされる前に吉備がヤマトに征服された。現地の豪族(吉備氏、和氣氏など)や社家が吸収されたため、現在でも吉備の王や吉備津彦神社、吉備津神社などの官司は「現人神」とはされない。</p> <p>出雲においては、近現代まで、地域住民が出雲大社の官司・出雲国造を現人神と崇め、国民の天皇崇拝に反対する風習が見られたが、現在は形骸化し、むしろ官司も住民も(天皇の「人間宣言」にもかかわらず)天皇のみを「明か御神」と表現して神性を認める一方(「出雲国造神賀詞」の表現)、出雲大社と特別に秘儀を続ける巫女としようが、互いに「神」と呼び合っている。</p> <p>なお、旧吉備王国・非大和朝廷系の女系巫女神道の主張には、「埴輪は吉備で発祥した」、「応神・仁徳・履中天皇陵は吉備の倉山古墳を襲って発掘した」といったユニークなものが多いが、のちにこれらの多くが、発掘・研究調査で実と判明している。</p>	<p>右記の同項を見よ。</p>	<p>左記の同項を見よ。</p>	<p>天地開闢を担ったとされる造化三神・別天津神や神代七代への信仰を重視するものの、天照大神直系の天孫とされるヤマトの王、すなわち天皇を「現人神」かつ神道の主宰者とする傾向がある。</p> <p>また、近代、とりわけ戦前・戦時中には、天皇大権、国家の統治権の総攬者としての天皇の権限の絶対性は、神道の主宰者としてのそれを上回るものと見なされ、かつ「神道は宗教ではない」とされて、帝国憲法で保障されていた「宗教の自由を迂回する形」で「国家神道」が定義され、国家国民総崇拝のフェイズム・全体主義神道へと変貌した。</p> <p>戦後は一転、宗教法人神社本庁が天照大神・天孫信仰の中心を担うが、現在も神道政治連盟などの関係団体を通じて神道行政の一端を形成しており、国政や宮内庁に介入的である。また、靖国神社などの単立法人も、神社本庁とは概ね非敵対的で、天皇の靖国不参拝を批判するなど、実際は国政や宮内庁に介入的である。</p>	<p>基本的には、天照大神直系の天孫とされるヤマトの王、すなわち天皇を「現人神」かつ神道の主宰者とするものの、天地開闢を担ったとされる造化三神・別天津神や神代七代への信仰を重視し、しばしば天照大神・天孫信仰に反抗した神道の系譜である。従って、神代から枝分かれた各血統のうち、皇統の天孫血統の神性・真性を懐疑する立場が存在する。</p>	
---	------------------	------------------	--	---	--

**原始自然信仰、シャーマニズム、アニミズム、トーテミズム、「霊(ヒ)」・「マナ」信仰、鬼道(神懸り未分離ないし霊仏公伝以前の神道)**  
 :折口信夫や中山太郎の説の通り、原始神道は全てが巫女神道・巫女教として発祥したが、巫女禁断(1873)以降、稲荷神社神道・国家神道・皇室神道・伊勢神宮および神社本庁・神道政治連盟・都道府県神社庁は否定的・批判的立場を、教派神道系教団や民俗学者らは肯定的立場をとる。

<p>音楽・歌の側面(歌垣・歌掛き・掛け合い・囃歌・歌謡・口寄せ)と巫女神道・巫女教の側面(鬼道・呪術・神懸り神事・巫女舞・巫女神楽)が分化した時代</p>	<p>吉備境丘墓文明圏</p> <p>埴輪が吉備の巫女の原始神道の祭壇(特殊舞台・特殊壺)として発祥(岡山、福築塚丘墓)</p>	<p>古代出雲圏</p> <p>古代吉備圏(岡山、広島、山口、兵庫)</p> <p>古代畿内→古代ヤマト圏(奈良、京都)</p>		<p>屋敷・崇り(今立ち有り)神々の(巫懸り)信仰</p> <p>人身御供(ヒとみごころ)・人身供儀・生贖、人柱</p>	<p>人間を神への生贄とする風習は、太古より日本列島(縄文人、弥生人、琉球民俗、アイヌなど)や東アジア、環太平洋地域(マヤ、アステカ、インカなどアメリカ大陸側沿岸部を含む)、一部のヨーロッパ地域に見られる。「道徳伝承、二股淵伝承、見付天神様家と早太郎・悪平太郎伝承、丹塗矢伝承、富岡八幡宮伝承、アイヌの人身御供伝承など」</p> <p>古代ヨーロッパや西アジアでは、下層民や奴隷、土着宗教の信徒を(ローマ帝国、ユダヤ教、キリスト教などの正統性を口実として)生贄とした一方で、アニミズム文化圏である日本、東アジア、環太平洋地域では以下の特徴が見られる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆多くの人身御供の伝説と実語において、生贄となったのは女子であり、中でも確認できる限り、姐女、少女、巫女、未婚女子がほとんどを占め、かつほとんどの場合でこれら全てを満たしている。一方、確認はできないものの、美女であることが条件として記録されている場合も多い。</li> <li>◆人身御供の方法は、川・泉・滝などへの女子自らの入水・飛び込み・転落、祭祀の主宰者や村人らによる投げ込みである。槍・刀・剣・斧・矢などを用いた自害や殺害は、ほとんどの場合で人身御供として記録されていない。</li> <li>◆欧米圏のような死後の転生信仰や悪魔崇拝による赤子の殺害や(集団)自殺(人民寺院の集団自殺など)と異なり、主に男神への貢物、その荒魂(あらたま)の(顕現である天災や疫病の流行などの)鎮魂・鎮圧策として行われたものである。</li> <li>◆邪馬台国の卑弥呼の死に際して100余人の奴婢が殉葬されたと『三国志』「魏志倭人伝」に記されるなど、太古の時代には女王・女官に対する男臣の殉葬も見られ、これは東アジア、環太平洋地域、ヨーロッパに共通する特徴である。ところが、のちに東アジア、環太平洋地域では、人身御供のほとんどは前述の形態となった。地・津・波・台風など、これらの地域に特有の大規模自然災害の存在が影響したと考えられる。</li> <li>◆日本では古来、狭い国土と急峻な地形、流れの速い河川により、河川の氾濫、洪水が多発しており、また、怨霊信仰、御霊信仰、精霊信仰、妖怪信仰、人神信仰が広がるにつれ、自然災害や疫病の流行は人間の地上での悪行に対する神々(邪神や夜叉)の怒りの顕現であると信じられるようになった。それがために、ほとんどの人身御供が、上記の通り純潔女子の奉納形式となった。</li> <li>◆日本では、生贄の対象となる純潔女子(の家)の屋敷には神靈から白羽の矢が立てられる(放たれる)とされ、実際に白羽の矢が作られ、立てられた。諺「白羽の矢が立つ」(期待・囁き立てられる)はこれに由来するが、本来は「犠牲性に選定される」、「神々の荒魂に目を付けられる」の意であり、かつ、「白羽」の矢は純潔女子のみを与えられた(向けられた)ものであった。</li> <li>◆なお、殉葬の代わりに土で作った人馬を陵墓に立てたのが埴輪の起源であるとする説話が『日本書紀』垂仁紀に記録されている。しかしこれは、ヤマト王権の創作にすぎないことが考古学上判明している。吉備王国(岡山県と周辺地域)の埴輪墓(福築塚丘墓など)で巫女の祭壇として特殊壺・特殊壺が発祥し、これをヤマト王権が模倣して普及させたものが埴輪であることが分かっている。一方、中国の兵马俑は人身御供の代替であると推定されている。</li> </ul>
	<p>吉備系巫女神道・巫女舞・歌謡</p> <p>吉備・岡山県の多くの女系巫女神道家は、家宝や秘伝・秘儀に基づき、以下を主張。      →ヤマトの埴輪、ヤマトの特殊壺(特殊壺)の発祥地</p>			<p>本来、「崇り」とは「神々の立ち寄り」、すなわち神々の顕現の意で、この頃はこれらへの忌避と抵抗よりも畏怖と崇敬が優勢であり、神々の靈験として甘受されている。これを神懸り神事や言葉(「言拳げんげん」)によって統御できる唯一の術者が巫女</p>	

太古

青銅器時代







奈良時代	吉備の豪族(吉備氏や和氣氏)が大和朝廷側によって吉備を征討し、朝廷の中枢官職を占めるに至る。聖武天皇が吉備の瓦で東大寺を建立し、吉備を崇拝的に統合。これ以後、朝廷祭祀は本格的に仏教に移行。一方で、まず物部・吉備神道、次いで中臣系神道が吉備現地の巫女神道と結託し、秘儀秘教化を開始。		◆(大)中臣氏優勢のまま吉備氏振るわず、秘儀化して吉備・山陽に流入。教派神道系教団の一部が、(岡山県備前市伊部)		◆次第に吉備氏が圧倒し、神祇伯・神祇大副・伊勢祭主世襲社家となる。物部・吉備両神道に次ぐ古い朝廷祭祀氏族。而神道と同様、秘儀化して吉備・山陽の教派神道系教団に流入したが、両神道よりもよく残る。		『記紀』が完成(いづれも天武天皇の命による編纂とされる。また、完成はいずれも女帝朝。「古事記」は元明天皇、『日本書紀』は元正天皇。)		駅真(備前) 本地垂迹説に対して神本迹説が勃興し、これを當家神道が担うまで、神備習合思想は一旦影を潜め、孔子系神と儒主神従思想が優勢となる。		未だ体系化されていない密教が山岳信仰と習合して成立。		惠灌が開宗。★中論、十門論、百論		道蔵が開宗。★成実論		眞真が開宗。★四分律		道昭が開宗。★唯識論		道昭が開宗。★説一切有部		良弁・善珠が開宗。★華嚴經、三論宗							
	古代出雲系巫女神道(高嶺、高取、岡山、広島)		★元伊勢信仰(吉備、山陽、瀬戸内海沿岸部、紀伊、奈良、京都)		吉備神道 ◆803年、正式に「忌部」を「吉備」と改める。		◆孔子や儒家の先哲を祀る儀式。孔子の場合、「孔子祭」。吉備氏らが整備。		本地垂迹説		平安二宗(平安仏教)																			
平安時代	★女系巫女神道		◆出雲の巫女神道とは異なる。大社社家による男系神道、神話「事代主神守護神給」と、寿詞「出雲国造神賀詞」(天皇を現人神とし、「朝つ御神」と表現。奈良から平安初期に15回。)		出雲神道		斎院		斎院		真言密教(東密)		天台密教(台密)		眞言宗		天台宗(法華宗、天台法華宗、天台法華内宗)		空海が開宗。★三論宗		最澄が伝教。		◆観相念仏		◆私得僧:空也(阿弥陀聖、市聖、市上人)の口陀念仏、語念仏					
	吉備王國西端(山口)		↑杵築大社(出雲大社)の建設(4c~7c)以前に発祥し、継承		↑墳丘墓時代(2~3c)以前に発祥し、継承		物部神道		伯耆神道(白川神道)		反本地垂迹説(神本仏徒説)		物忌み信仰		西郡神道(阿部習合神道)		山王神道		◆称名念仏											
鎌倉時代	二所山田神社宮司吉本家・巫女、のち女子道社員・近隣の主婦・女子		吉備系巫女神道・巫女舞歌道		吉備や土佐へ再流入し、土着の巫女神道と習合		物部神道		花山天皇が延信王を神祇伯に任命。◆神祇伯世襲社家(13c以降、白川伯王家・白川王家の王号)、口伝による宮中祭祀継承、民間商家のうちの商家神事、書神(さいわ)神事、祝(はふり)の神事		★大中臣神道が儒教・陰陽道の色を帯び、度会神道が一部継承		蘇氏得來信仰・武埴神信仰・夜神信仰(牛頭天王信仰・スサノオ信仰・狐面信仰・龍王神信仰・舟島信仰など)		◆御霊信仰全般の共通点としては、ケガレの思想が物忌みの思想に、怨霊・荒魂信仰が種法善神・和魂信仰に、神人一体のシャーマニズムが現世利益思想・神頼み・靈験信仰に、変遷していることが挙げられる。音原道真を学問の神様とする天神信仰も、元来は道真の御霊信仰であった。それぞれ前者を重視した吉備巫女神道では、左記の通り、巫女の神降ろし・怨霊降ろしが優勢で、神々の死魂と和魂、人神の御霊と慈悲とを二分する「和魂神」(内王神様)の信仰が		★真言密教、山岳信仰、修験道 ◆本地垂迹説、神仏の究極的一致(両界仏・菩薩を本地とし、日本の神々の垂迹とする)		★天台密教、山岳信仰、修験道 ◆本地垂迹説、三諦即一思想、山王権現(日吉神社祭神の大山咋神)を釈迦の垂迹とする		◆末法思想、終末論(インド原始仏教にはなく、中国・日本のみ。)		◆観相念仏		◆私得僧:空也(阿弥陀聖、市聖、市上人)の口陀念仏、語念仏		◆観相念仏		◆私得僧:空也(阿弥陀聖、市聖、市上人)の口陀念仏、語念仏	
	二所山田神社・女子道社・巫女舞歌道		阿曾・阿新・神那・神代(こしじら)・矢神・阿部山・龍ヶ窪・原流巫女神道・巫女舞歌道		備前境丘高流鬼神道(広瀬には、道鏡伝説、鬼ノ橋伝説、吉備津家伝説、徳太郎伝説などを含む、またはこれらの遺蹟)		吉備へ再流入し、土着の巫女神道と習合。色久古歌跡群・備前焼(伊部焼)陶芸家にも流入。		吉備へ再流入し、土着の巫女神道と習合		(大)中臣神道		荒木田神道(伊勢内宮神道、皇大神宮神道)		度会神道(伊勢神道、外宮神道、皇大神宮神道)		御霊神道		鎌倉六宗(鎌倉仏教、鎌倉新仏教)		良忠が開宗。									



<p>化・化身する秘儀が優勢であり、また古備の人々の間でもスサノオ信仰が未だ確立していなかったため、同信仰は岡山を除く西日本(備後、播磨、出雲、京都)の神社にまず定着した。ところが、古備の巫女らが伝承する御霊信仰御生説話は、京都の下御霊神社が祀る吉備御霊を、吉備真備が吉備内親王と見ている。真備説は神社自身、内親王説は女性歴史小説家からも喝えられている。</p>		<p><b>雄略・公家</b>の出自ながら、<b>紀伊・神祇</b>に由来により<b>男系男子天皇の地位を脅かした</b>ことのある<b>ヤマト系・皇女系巫女神道(伊勢神宮書王(書宮、上皇)系巫女神道、下鴨神社書王(書宮)、八神殿の巫女、宮中三殿の巫女)</b></p>		<p>★天照大神、律令神道、大中臣神道(前宮の荒木田氏は中臣氏の出自とも)、和魂・荒魂信仰(皇大神宮正宮と別宮の多賀宮)国常立尊信仰(天照大神・天皇崇敬の相対的矮小化)に対する危機感、天照大神・天皇(天孫)の正統の主権、伊勢信仰</p> <p>◆単に「伊勢神道」とは右記の度会神道をいう。内宮の神道は、ほとんどの時代で度会神道に対して優位を保ったが、荒木田神道(伊勢内宮神道)の語は史上ほとんど用いられていない。</p>	<p>★国常立尊信仰、儒教、道教、大中臣神道、和魂・荒魂信仰(豊受大神宮正宮と別宮の多賀宮)</p> <p>◆外宮・豊受大神(外宮の祭神)を天之御中主神や国常立尊と同一視して普通の神格(根高神、絶対神)化し、内宮・天照大神(内宮の祭神)に対する対抗意識ないし復讐思想を示した。神嘗一歌、反本地垂迹説(神本仏迹説)。当初は仏法禁忌(律令制下)・反仏・排仏、のち神主仏徒・未字学重視のもと儒仏・陰陽道混合。</p>	<p><b>国常立尊信仰</b></p>	<p>「蘇我」や「天孫」の権威に抵抗する動きさえあった。しかし、巫女の託宣や天神信仰が平野門の仏教式の「新皇」即位の口実にされるなど、巫女の神祇信仰も新興の天神信仰も権力闘争に都合よく利用された。</p> <p>◆陰陽道の天刑星・天道神で祇園精舎の守護神である牛頭天王は、蘇我得來説話の武塔神と同一視され、スサノオの本地や素戔嗚尊の垂迹とされた。牛頭天王を格とする諸習合は、『記紀』、『備後国風土記』(『新日本書紀』内)、『先代旧事本紀』などの説話を発端とし、のち復古神道や国家神道はスサノオの朝服(神起調)を主張した。元より「武塔」は朝服の巫堂(ムーダン)に関連するが、これら諸習合は、現在も広島、兵庫、出雲、京都、岡山の神社に残る。関東の氷川信仰もスサノオ信仰だが、出自は別。</p>	<p>◆両部神道 ◆灌頂儀式、密教儀式(印信・口決)</p>	<p>浄土宗 浄土真宗(真宗・一向宗)</p>	<p>時宗(遊行宗)</p>	<p>法華宗(日蓮宗、日蓮法華宗)；但し、のち日蓮宗(一宗派)と法華宗(浄土宗)は同義でなくなり、分派</p>	<p>臨濟宗 曹洞宗 真言律宗</p>
<p>芥子山御座(大分県)書宮、菊句(福岡)御座神社、布流神社(茨城)巫女神道、巫女御歌</p>	<p>姫社(ひめこそ)系巫女神道、巫女御歌</p>	<p>★ヤマト王権支配下に入り系族化したのが、『記紀』原理主義(と分け)国常立尊信仰)に立ち、天照大神とその直系天孫たる皇統の存立や、蘇我氏以降の系族系家、藤原氏以降の男系公家・貴族の立場を脅かした。京都や奈良の男系巫女神道</p> <p>◆出雲や吉備(現岡山県、山陽地方)と同じく、太古には系族系巫女神道だった物語、齋部、大中臣神道は御霊祭祀氏族となり、男系男子神道と変化した。しかし、仏教・律令制による国家体制を敷いたヤマトに対抗し、今度は男系系巫女神道へと変化した。祭儀の大部分が旧吉備王国の系族系巫女神道に入る。これが近世以降の吉備・岡山・山陽・奈良・京都の系族系・シャーマンの神眼りによる立教(天理教、大本、ほんごしんなど)や男系教祖による立教(黒住教、金光教、神智学会など)の発生源となる。</p>	<p>◆伊勢神宮への和魂・荒魂信仰の影響としては、正宮・別宮の名称から明らかのように、もはや和魂が神々の主魂とされており、太古の並列的靈魂観に代わって靈魂のヒエラルキーが早期に発生している。荒魂信仰が和魂信仰に転じ、後者が神々の本性とされる傾向は、御霊信仰にも生じているが、朝廷祭祀や神宮祭祀(神宮の機構)において最も早く発生している。これは元来、素戔嗚尊期における疫病が大物主(三輪明神)の荒魂によると信じられたことなどに始まる。</p>	<p>◆伊勢神宮への和魂・荒魂信仰の影響としては、正宮・別宮の名称から明らかのように、もはや和魂が神々の主魂とされており、太古の並列的靈魂観に代わって靈魂のヒエラルキーが早期に発生している。荒魂信仰が和魂信仰に転じ、後者が神々の本性とされる傾向は、御霊信仰にも生じているが、朝廷祭祀や神宮祭祀(神宮の機構)において最も早く発生している。これは元来、素戔嗚尊期における疫病が大物主(三輪明神)の荒魂によると信じられたことなどに始まる。</p>	<p><b>陰陽道、天文道、曆道、易学</b></p>	<p><b>國常立尊信仰、神嘗一歌、神祇道、禊祓</b></p>	<p>天文道系家の安倍氏(嫡流は土御門家、庶流に幸徳井家)と曆道系家の賀茂氏(嫡流は齋部小路家)が陰陽道に天文道、曆道を吸収し、これを二氏で独占支配。なお、幸徳井家初代・友春が賀茂氏の養子であったため、幸徳井家は賀茂系陰陽道で、江戸時代に、陰陽師の地位や全国の陰陽師・声聞師の支配権をめぐって土御門家と対立。</p>	<p>岡山で誕生、発祥。法然が開宗。</p> <p>親鸞が開宗。</p> <p>一蓮が開宗。</p> <p>日蓮が開宗。</p> <p>岡山で誕生、発祥。栄西が開宗。</p> <p>道元が開宗。</p> <p>般若が中興の祖</p>	<p>岡山で誕生、発祥。法然が開宗。</p> <p>親鸞が開宗。</p> <p>一蓮が開宗。</p> <p>日蓮が開宗。</p> <p>岡山で誕生、発祥。栄西が開宗。</p> <p>道元が開宗。</p> <p>般若が中興の祖</p>	<p>岡山で誕生、発祥。法然が開宗。</p> <p>親鸞が開宗。</p> <p>一蓮が開宗。</p> <p>日蓮が開宗。</p> <p>岡山で誕生、発祥。栄西が開宗。</p> <p>道元が開宗。</p> <p>般若が中興の祖</p>	<p>岡山で誕生、発祥。法然が開宗。</p> <p>親鸞が開宗。</p> <p>一蓮が開宗。</p> <p>日蓮が開宗。</p> <p>岡山で誕生、発祥。栄西が開宗。</p> <p>道元が開宗。</p> <p>般若が中興の祖</p>	<p>岡山で誕生、発祥。法然が開宗。</p> <p>親鸞が開宗。</p> <p>一蓮が開宗。</p> <p>日蓮が開宗。</p> <p>岡山で誕生、発祥。栄西が開宗。</p> <p>道元が開宗。</p> <p>般若が中興の祖</p>
<p>一吉備の系族系巫女神道が外宮の度会神道の祭祀に巫女を供給、内宮に対抗、吉備の系族系巫女神道家において、天之御中主神・国常立尊信仰を天照大神・天孫信仰と同等かそれ以上と見なす立場が決定的となる。吉備の系族系巫女神道は必然的に敬教となった。</p>	<p>『歌道總覽』の系族系巫女神道の項にて詳説(系族系巫女神道家にも見られる苗字「岡山県」に集中)</p>	<p>★ヤマト王権支配下に入り系族化したのが、『記紀』原理主義(と分け)国常立尊信仰)に立ち、天照大神とその直系天孫たる皇統の存立や、蘇我氏以降の系族系家、藤原氏以降の男系公家・貴族の立場を脅かした。京都や奈良の男系巫女神道</p> <p>◆出雲や吉備(現岡山県、山陽地方)と同じく、太古には系族系巫女神道だった物語、齋部、大中臣神道は御霊祭祀氏族となり、男系男子神道と変化した。しかし、仏教・律令制による国家体制を敷いたヤマトに対抗し、今度は男系系巫女神道へと変化した。祭儀の大部分が旧吉備王国の系族系巫女神道に入る。これが近世以降の吉備・岡山・山陽・奈良・京都の系族系・シャーマンの神眼りによる立教(天理教、大本、ほんごしんなど)や男系教祖による立教(黒住教、金光教、神智学会など)の発生源となる。</p>	<p>◆伊勢神宮への和魂・荒魂信仰の影響としては、正宮・別宮の名称から明らかのように、もはや和魂が神々の主魂とされており、太古の並列的靈魂観に代わって靈魂のヒエラルキーが早期に発生している。荒魂信仰が和魂信仰に転じ、後者が神々の本性とされる傾向は、御霊信仰にも生じているが、朝廷祭祀や神宮祭祀(神宮の機構)において最も早く発生している。これは元来、素戔嗚尊期における疫病が大物主(三輪明神)の荒魂によると信じられたことなどに始まる。</p>	<p>◆伊勢神宮への和魂・荒魂信仰の影響としては、正宮・別宮の名称から明らかのように、もはや和魂が神々の主魂とされており、太古の並列的靈魂観に代わって靈魂のヒエラルキーが早期に発生している。荒魂信仰が和魂信仰に転じ、後者が神々の本性とされる傾向は、御霊信仰にも生じているが、朝廷祭祀や神宮祭祀(神宮の機構)において最も早く発生している。これは元来、素戔嗚尊期における疫病が大物主(三輪明神)の荒魂によると信じられたことなどに始まる。</p>	<p><b>神祇大劇(神祇嘗次官)世襲世家</b></p>	<p><b>唯一系巫女神道(元本系巫女神道、唯一神道、卜部神道、吉田神道)</b></p>	<p>天文道系家の安倍氏(嫡流は土御門家、庶流に幸徳井家)と曆道系家の賀茂氏(嫡流は齋部小路家)が陰陽道に天文道、曆道を吸収し、これを二氏で独占支配。なお、幸徳井家初代・友春が賀茂氏の養子であったため、幸徳井家は賀茂系陰陽道で、江戸時代に、陰陽師の地位や全国の陰陽師・声聞師の支配権をめぐって土御門家と対立。</p>	<p>三輪神道 天台神道(日言神道) 法華神道</p>	<p>三輪神道 天台神道(日言神道) 法華神道</p>	<p>三輪神道 天台神道(日言神道) 法華神道</p>	<p>三輪神道 天台神道(日言神道) 法華神道</p>	<p>三輪神道 天台神道(日言神道) 法華神道</p>
<p>★系族系巫女神道 6c頃に発祥し、継承</p> <p>古代出雲系族系巫女神道(鳥取、岡山、広島) 古代吉備系族系巫女神道(岡山、山陽、山陽、山陽、山陽)</p> <p>備中一宮(吉備津神社)備前神事(吉備津神社)備前神事(吉備津神社)備前神事(吉備津神社)備前神事(吉備津神社)</p>	<p>いざなぎ渡御祈禱(いざなぎ渡御神楽)</p>	<p>高知県香美市物部町(旧物部村)・物部川流域を中心に、香北町、土佐山田町、香我美町に伝承される独自の神道系流派。</p> <p>★物部神道、吉田神道、陰陽道(太夫らの多くは、陰陽師の影響を否定しており、陰陽師を名乗らないが、影響は明らかである)、修験道、仏教</p> <p>◆独自の祭文・御幣、地域ごとにさらに「根木屋伝」(神道寄り)、「天台流」(修験道寄り)などの諸流派に分かれる。</p>	<p>吉田系発創始。</p> <p>★度会神道、儒教、道教、陰陽道、仏教、密教、加特祈禱、神備仏三教習合、秘伝神道</p> <p>◆反本地垂迹説(神本仏迹説)、神道の汎神論。豊受大神を祀る立場からこれを天之御中主神や国常立尊と別個に同一視するにとどまった伊勢神道を発展させ、天之御中主神と国常立尊とを完全に同一とした。吉田家は「神祇嘗領長上」を名乗った。</p>	<p>吉田系発創始。</p> <p>★度会神道、儒教、道教、陰陽道、仏教、密教、加特祈禱、神備仏三教習合、秘伝神道</p> <p>◆反本地垂迹説(神本仏迹説)、神道の汎神論。豊受大神を祀る立場からこれを天之御中主神や国常立尊と別個に同一視するにとどまった伊勢神道を発展させ、天之御中主神と国常立尊とを完全に同一とした。吉田家は「神祇嘗領長上」を名乗った。</p>	<p>★両部神道、御流神道 ◆神祇灌頂</p> <p>同時期、男女陰陽道を脱く真言立川流が盛衰</p>	<p>★法華宗、のち日蓮宗 ◆本地垂迹説</p>	<p>★仏教的神道、神仏習合 ◆山王神道にほぼ同一だが、一系神道を主とする近世山王神道の名称。幕府の東照宮祭祀を支配し、神仏習合を排する寺社奉行神道方の吉川家に対峙。</p>	<p>★両部神道、御流神道 ◆神祇灌頂</p> <p>同時期、男女陰陽道を脱く真言立川流が盛衰</p>	<p>★法華宗、のち日蓮宗 ◆本地垂迹説</p>	<p>★仏教的神道、神仏習合 ◆山王神道にほぼ同一だが、一系神道を主とする近世山王神道の名称。幕府の東照宮祭祀を支配し、神仏習合を排する寺社奉行神道方の吉川家に対峙。</p>	<p>★法華宗、のち日蓮宗 ◆本地垂迹説</p>	<p>他宗旨に阿諛して布施を拒む日蓮宗の要質に対し、日親とその一派が日蓮の勢えである不受不能義と法華経原典への回帰を主張するも、容れられず、墨田秀吉による方広寺大仏殿子僧供養会を機に受持派と不受不能派(日蓮)の分派が決定的に。</p> <p>キリスト強の仏伝</p>

安土・桃山時代

江戸時代

密教系、神仏習合系、陰陽道系、神儒習合(儒家神道)系神道に巫女を供給し、幕府や地元岡山藩の儒学優先・分離策に対抗。但し、儒家神道の極端な理学神道化には、巫女の秘権の重要性を主張して抵抗。

初的神儒仏分離策(岡山藩)

水戸藩、澁浦、会津藩がこれに続く。

江戸時代の儒学直系神道(狭義の儒家神道)による儒学(ほぼ全て朱子学)の体系化

理直心地神道(王道神道)

吉川神道

国常立尊信仰

天道思想

震伝神道(幕府神道)

山王一実神道

思想の源流は慶応寺行や清原宣隆。主流は林羅山に始まる儒主神道の林家神道。山鹿系行、熊沢喜山、喜田東淵は神主儒徒、萩生祖保(本姓は物部氏)は神道色が希薄。  
★密学・儒教、とりわけ朱子学  
◆神儒一致、儒主神徒、反仏・排仏、反神仏習合、反吉田神道、反陽明学、徳川幕藩体制正当化、弊害の復興、吉田神道の秘伝的傾向を非難しつつ自身が秘伝化。

吉川惟足創始。  
★吉田神道、国常立尊信仰、儒教、朱子学、宋学、管学  
◆神道三教学、君臣の道、神儒一致、吉田神道の神儒仏習合要素排除、儒学・宋学重視、行法神道に対する理学神道の真性を主張、神人合一説、保科正之が整理し、吉川家は幕府神社奉行神道方を世襲。神仏習合の天台神道・兼照宮祭秘に押され、近世武家社会の中心とはならず。

★吉川神道が神人合一説を主唱、垂加神道が発展継承

★仏教、儒教、道教、神仏習合、儒家神道  
◆神仏習合・特に仏教を基盤とするが、神儒仏一致思想、かつ一神教的・運命論的「天道」・「天命」信仰で、普及は儒教道徳の浸透による。中国の神林の儒仏道三教一致思想の道教部分が、日本では神道に置き換わった。お天道様(おてんとさま)の起源。

★真言密教、仏主儒徒  
◆赤心・君神道の奥義を説く儒教を下位に置く、神祇灌頂

★山王神道、天台神道、日吉神道、度会神道  
◆天海が庇護、東照大権現(家康の勅諭等)

崎門学(崎門神学、蘭学)

垂加神道(神社(しです)神道、山崎神道)

山崎闇斎創始

★度会神道、朱子学

◆単に闇斎の学を、またはその朱子学の側面を祖とした場合を、崎門(神)学や闇斎学という。湯武放伐・易姓革命肯定など、思想の骨格は垂加神道そのものである。門人(崎門学派)に正頼町公、土御門泰福、浜川春海、帆足長秋ら。

古蘭(蘭)道(豊前藩道)

伯耆神道(白川神道)

吉田神道

1595 受布藩派

1595 不受不施派

1549 キリスト教の公権(イエズス会)

日蓮本宗、日蓮正宗、法華宗などはほぼ全ての法華系宗旨  
★法華宗旨  
◆他宗旨の布施を受け、供養も施す。

岡山県に集中的に発生  
◆法華経・日蓮原理主義(白蓮自身は不受不施を主張)。

江戸幕府および受布施派は、不受不施派を「邪宗門」として弾圧。不受不施派は岡山に偏って隆盛したため、岡山藩初代藩主・池田光政以降、歴代藩主が弾圧を実行。

岡山(法然生國地および周辺地域)の浄土宗の弾圧に加担。以後、浄土宗による不受不施派への弾圧が全国に拡大。

1599 家康と受布施派が親幕の受布施派・日紹を大坂城へ送り込み、不受不施派の妙覚寺・日奥に論争を仕掛け、日奥が対馬に流罪となる。(大阪対論)  
1608 家康、浄土宗、受布施派が親幕・親受布施派の浄土宗・原山を江戸城へ送り込み、不受不施派の妙覚寺・日経に論争・攻撃を仕掛け、日経が心神喪失で事実上敗北。  
1609 日経が京都六条河原での拷問・身体刑により耳や鼻を失う。さらに、四肢麻痺、言語不能の瀕死の重傷にさせられた説あり。(慶長宗談、慶長法難)

1630 幕府と受布施派の久遠寺が親幕の受布施派・日連らを送り込み、不受不施派の池上本門寺・日朝に論争を仕掛け、日朝は僅量国伊那郡飯田に流罪となり、日朝を支持しつつ亡くなった日奥は遺骨が対馬に流罪となる。(身池対論)

1665 幕府と受布施派が不受不施派に「教田供養」の弾圧。

不受不施強硬派が岡山県(とりわけ備前国・備中国)で拡大。上記弾圧により、他地域で隠れ不受不施派(表向きのみ他宗旨に改宗した「内信」)となっていた信徒らも主に岡山に逃亡、合流、潜伏。「内信」から強硬派に再び転ずる僧侶・信徒も増加。

寺請制度(キリシタンや不受不施派でないこと、道徳徒であることの証明)

寺請制度

1665 不受不施派・日講が「守正護国章」呈上。  
1665 不受不施派禁止令  
1666 日講、日向に流罪。  
1669 不受不施派寺請禁止令

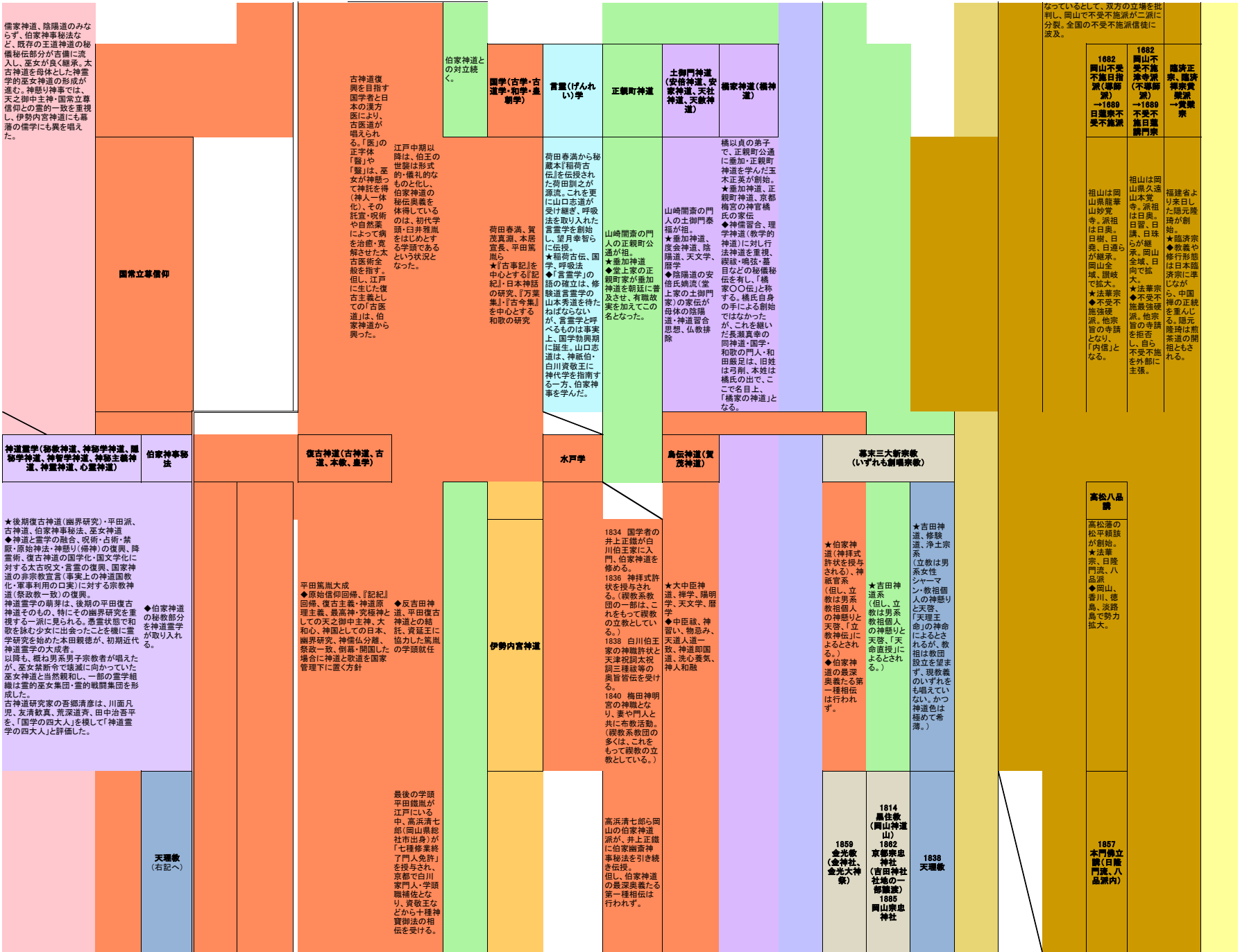
キリスト教禁令の強化

一部の東国(上総国、下総国、安房国など)の軟派(「悲田派」や「恩田派」)が、弾圧・拷問に耐えかねて幕府・受布施派に妥協。一方の備前・備中では、不受不施強硬派を維持。

1691 幕府が悲田派に対し、受布施派・天台宗への改宗命令を発布(派内になお隠れ不受不施派がいたため、一派全体を隠れ不受不施派と見なし弾圧し、関係者を流罪に。)

備前・備中の不受不施強硬派を中心に、強硬派(他宗旨の寺請自体を拒否する僧侶の「法中」、地方僧侶の「法燈」、信徒の「法立」)が、主に法立を通じて軟派・隠れ不受不施派(表向きではあるが、他宗旨の寺請となり、満足に不受不施派に近づけない僧徒である「内信」)を仲介・擁護する地下組織(「導師」制度)が確立。しかし、岡山の最強硬派は、幕府・他宗旨への妥協なき法立(清)が仏法を捨てた内信(濁)の導略と

1612、キリスト教禁止令





<p>巫女神道・巫女教とその神事たる巫女神楽・巫女舞は「巫洞部教」とされ、巫女禁断令が発布され、巫女と巫女神道は家およびその神事が懐疑的となった。かつ右記独立教派に強制配属・分断された。</p> <p>このとき、吉備の巫女の多くは、当然のごとく同郷の黒住教や金光教に配属させられた。一方、シャーマンであった祖母の神託を目撃したことが教派創始の契機となった同郷の芳村正業の神習教に連良く配属された巫女らは、正業の深い理解と庇護により、秘伝秘儀をよく保った。</p> <p>次第に、巫女たち自ら教派神道に所属して秘伝秘儀を維持するようになった。</p> <p>殊る巫女に対しては、欧米の宗教学者や妻としたり欧米の魔術師(魔女)に転向させたりする形での国外追放と家系根絶が行われた。</p> <p>しかし、1900年前後から、次第に巫女ら自ら神秘主義クワンや西洋魔術結社に出向くようになり、そのまま現地に定着した巫女もいる。現代西洋魔術学の鼻祖とされている「黄金の夜明け団」、その分派でキリスト教神秘主義の「聖黄金の夜明け団」や「善羅十字同志会」、儀式魔術の「魂の巫」、セレマ神秘主義の「銀の星」や「東洋神教修道会(東方聖堂騎士団)・グノーシス・カトリック教会」などは、巫女たちの最後の所属先の代表例である。</p> <p>これらの一部の集会は、中世ヨーロッパで信じられていた魔女の妻会(魔妻)にちなみ、「サト」を名乗っている。自分たちを魔女と自覚している例である。</p>	<p>神道中心の神仏(ないし神儒仏)合同布教、大教院(神道総本山)による教人・修人の管理統制</p>				<p>1875 神仏合同布教禁止令、神道事務局設置、皇大神宮遷拝殿(のちの東京大神宮)の中央神祇化構想、大教院解散</p>	<p>1875 神道事務局、神道大教院</p>	<p>1873 出雲大社教神議 →1876 大社教会</p>	<p>1874 大教正 1880 神道事務局副官長 1882 神道神宮教初代管長</p>	<p>1874 大教正 1880 神道事務局副官長 1882 神道神宮教初代管長</p>	<p>1873 修成神社 →1876 神道修成社 ◎別派特立</p>	<p>1876 修成神社 →1876 神道修成社 ◎別派特立</p>	<p>1876 修成神社 →1876 神道修成社 ◎別派特立</p>	<p>1876 修成神社 →1876 神道修成社 ◎別派特立</p>	<p>1876 修成神社 →1876 神道修成社 ◎別派特立</p>	<p>1874 教部省が日本神宗を臨濟・曹洞の二宗と定め、黄葉宗を強制改称。</p>
<p>神道総本山構想</p>	<p>神道総本山構想</p>			<p>1875 神道事務局、神道大教院</p>	<p>1873 出雲大社教神議 →1876 大社教会</p>	<p>1874 大教正 1880 神道事務局副官長 1882 神道神宮教初代管長</p>	<p>1874 大教正 1880 神道事務局副官長 1882 神道神宮教初代管長</p>	<p>1873 修成神社 →1876 神道修成社 ◎別派特立</p>	<p>1874 大教正 1880 神道事務局副官長 1882 神道神宮教初代管長</p>	<p>1873 修成神社 →1876 神道修成社 ◎別派特立</p>	<p>1876 修成神社 →1876 神道修成社 ◎別派特立</p>	<p>1876 修成神社 →1876 神道修成社 ◎別派特立</p>	<p>1876 修成神社 →1876 神道修成社 ◎別派特立</p>	<p>1876 修成神社 →1876 神道修成社 ◎別派特立</p>	<p>1876 政府が日蓮宗不受不施派の再興許可。</p>
<p>神道総本山構想</p>	<p>神道総本山構想</p>			<p>1875 神道事務局、神道大教院</p>	<p>1873 出雲大社教神議 →1876 大社教会</p>	<p>1874 大教正 1880 神道事務局副官長 1882 神道神宮教初代管長</p>	<p>1874 大教正 1880 神道事務局副官長 1882 神道神宮教初代管長</p>	<p>1873 修成神社 →1876 神道修成社 ◎別派特立</p>	<p>1874 大教正 1880 神道事務局副官長 1882 神道神宮教初代管長</p>	<p>1873 修成神社 →1876 神道修成社 ◎別派特立</p>	<p>1876 修成神社 →1876 神道修成社 ◎別派特立</p>	<p>1876 修成神社 →1876 神道修成社 ◎別派特立</p>	<p>1876 修成神社 →1876 神道修成社 ◎別派特立</p>	<p>1876 修成神社 →1876 神道修成社 ◎別派特立</p>	<p>1876 政府が日蓮宗不受不施派の再興許可。</p>



		<p>1880~81 祭神論争 (明治天皇の勅諭により、出雲派に敗北させる形をとって收束) 1882 皇典講究所</p>	<p>豊前国の神道家出身で、「皇国医道」家・歌人の佐野経彦(巫部経彦)が創始。 ★古神道、巫部神道、物部神道</p>	<p>伊勢派(祭神四柱を主張) 神道事務局副官長、伊勢派主導者: 田中緒南 ◆皇大神宮連持殿を所轄、大神宮祠(白比谷大神宮)と改称、次いで斯田橋大神宮となる。</p>	<p>出雲派(祭神五柱、御嶽一如を主張)</p>								<p>★富士信仰系(富士講、身振派など)富士の神の声を聞いたといつ武蔵國の農民・伊藤六郎兵衛が、大成教会山講を復興、「生き御嶽教会」を創設し、山講を復興、下山は神として崇められるも、教導職の資格を得るまでには政府からの強硬対策として富士山講に所属。</p>	
<p>近代に作られた巫女神像</p> <p>明治政府による巫女禁断策や世襲社家の廃止策に反対する一部の神家・神職(神家・実業家)・作曲家・振付師が巫女神像を再興、(歌謡総覧)を見よ。</p>	<p>巫女禁断策や祭神論争で行き先を失った巫女と、神社神道・皇室神道・国家神道(祭祀)から排除された教派神道(教)との利害が一致し、教派神道教団が巫女を所属させ、生業としての巫女神事の再興と維持に尽力した。</p> <p>吉備・岡山県における男子教祖による立教</p>	<p>1882 事実上の国家神道(神社神道、祭祀神道、皇室神道)概念の確立: 一元的外在制約説に基づく</p>	<p>1882 事実上の国家神道(神社神道、祭祀神道、皇室神道)概念の確立: 一元的外在制約説に基づく</p>	<p>1882~ 非宗教の神社・神道を国の祭祀とし、他宗教の上位に置くことは憲法の「宗教の自由」に反しないとして(一元的外在制約説に基づく)、事実上、神道国教化策、神道による國民統合策を強化。皇典講究所発足、神官の教導職兼補の禁令が出され、1884年、教導職廃止、神官の布教は禁止された。1882年、神宮司庁と神宮教団を分離設立認可(1884年)に於いて教派分離、教派神道形成。但し、政府は同時に宗教・教派神道強圧を開始。神道色が希薄であった天理教や金光教は、強硬対策として神道の教義を整備。神道事務局・皇典講究所総裁は有栖川宮徳仁親王、神道事務局官長・本局長は旧淀藩主福業正邦。</p>	<p>1883 佐野経彦が教導職大講義就任。一方、神理教会の教派分離設立認可が未だ下りず、御嶽教へ所属。</p>	<p>神道神宮派 ◎別派特立 →神宮教 ◎分派(派)でないとして教団(教)へ改称</p>	<p>神道大社派 ◎別派特立</p>	<p>神道大成派 ◎別派特立 →神道大成教 ◎分派(派)でないとして教団(教)へ改称 ◎分派(派)でないとして教団(教)へ改称</p>	<p>神道備中事務分局附置金光教 (神道本局所置)→神道金光教</p>	<p>御嶽教会 ◎神道大成派の別派特立に伴い、大成派から独立、神道事務局へ →神道御嶽派 ◎神道事務局から別派特立 (御嶽教会創始者で管長就任を打診予定の下山が突然行方不明となったため、管長は大成教会の平山省齋が兼任) →御嶽教</p>	<p>神道扶桑派 ◎別派特立 →扶桑教 ◎分派(派)でないとして教団(教)へ改称</p>	<p>神道実行派 ◎別派特立 →実行教 ◎分派(派)でないとして教団(教)へ改称</p>	<p>1885 富士山講丸山教会が扶桑教から独立 1886 神道丸山教会本院として神道本局へ所属</p>	<p>1882 政府が日蓮宗不受不施門派の再興許可。</p>
<p>巫女神道、巫女神道學、巫女御教神道</p> <p>星住教、金光教(右配へ)</p> <p>國幣立草僧侶</p>	<p>1884 神道事務局を神道本局に改編。 1887 官国神社神官の廃止(以降、今日の意味での「神職」となる。) 1889 神官同志会発足。のち全国神職会に発展。</p>	<p>1884 神道本局(1888年以降の正式な独立機関名: 「神道」)</p>	<p>1884 神理教(御嶽教所屬)</p>	<p>1884 皇學館→神宮皇學館</p>	<p>神道大社教 ◎分派(派)でないとして教団(教)へ改称</p>	<p>【飯田派】 饗教事務局 →1880 惟神教会講社(惟神教会が饗教事務局から離脱、神道大社教へ転向) →神道觀瀾(神道本局へ転向) 【東京派】 饗教金本院 →神道大成教 饗教金本院(神道大成教所屬)</p>	<p>蓮門教 →1883 神道大成教蓮門講社(1884 蓮門講社本局、蓮門教館本院 →1889 蓮門教館開学、大成教蓮門第一教講)(神道大成教所屬)</p>	<p>神道天理教(神道本局所屬)</p>				<p>1885 富士山講丸山教会が扶桑教から独立 1886 神道丸山教会本院として神道本局へ所属</p>		
<p>伯耆神事秘法集中相伝(進化參神神傳教會) 相伝者: 岡山伯耆神道、高浜清七郎および門弟</p> <p>明治政府による巫女禁断策および右記の國策に對抗して、岡山県、吉備・山陽系の各巫女神道家とその巫女らが、高浜清七郎(岡山県総社市出身)を中心とする岡山県、吉備・山陽系の伯耆神道派に協力、結託し、伯耆神事秘法を継承・保持。これを教派神道の各教派の巫女らに相伝し、あるいは自ら各教派の巫女となる。天照大神・皇統一辺倒の国家神道に対する進化參神神道の復興を計画・実行した。</p>	<p>言霊学・布斗麻羅(フトマニ)、實の葉の縁の道(宮中三殿・實所文書と一条家文書の密約研究) 神代文字・竹内文書(明生会が研究、偽書とされる)、 古史古伝・超古代文獻・超古代文書(偽書とされる)、 書圖・教書、 テレビ番組 明治天皇個人と付人・側近(首相・政府要人・軍人ら)の神道観</p>	<p>伯耆神事秘法集中相伝(進化參神神傳教會) 相伝者: 岡山伯耆神道、高浜清七郎および門弟</p> <p>明治政府による世襲社家の廃止、白川伯王家の興絶策、国家神道・神社神道の恣意な整備に對抗して、高浜清七郎(岡山県総社市出身)を中心とする岡山県、吉備・山陽系の伯耆神道派が、教派神道の各教派に伯耆神事秘法を伝授。尊皇派として活動した清七郎は、明治政府成立後、宮内省や白川家から明治天皇への伯耆神道相伝役として声がかかることを期待したが、成らず。薩長藩閥を中心とする新政府は、当初から伯耆神道を天皇の神道と見ておらず、宮内省の管理を固め、清七郎一派を排除し続けた。伯耆神事秘法の集中相伝は、清七郎の対抗策である。これを機に、政府の神道行政と一体化した事実上の国家機関であった神道本局が伯耆神道と通じることとなったため、政府から異教神道(神道教派)として見放されるようになり、結果的に本局は神道大教となり、教派神道の一派と化した。但し、分離独立当初は他の教派を主導する役割を担っていた点が、開業時代の名残ではあった。一方、清七郎の伯耆神道再興の試みは、その意に反して、元より神道色が希薄であった金光教や天理教、言霊学・偽書研究勢力への伯耆神道秘法の過剰流入や、これらの教団・組織への伯耆神道の秘伝書物の売り飛ばしを招いた。これらの教団・組織によって伯耆神道が定められ、伯耆神道そのものが異様なオカルティズムであると誤解される事態が生じた。その傾向は、現代においても継続している。</p>												

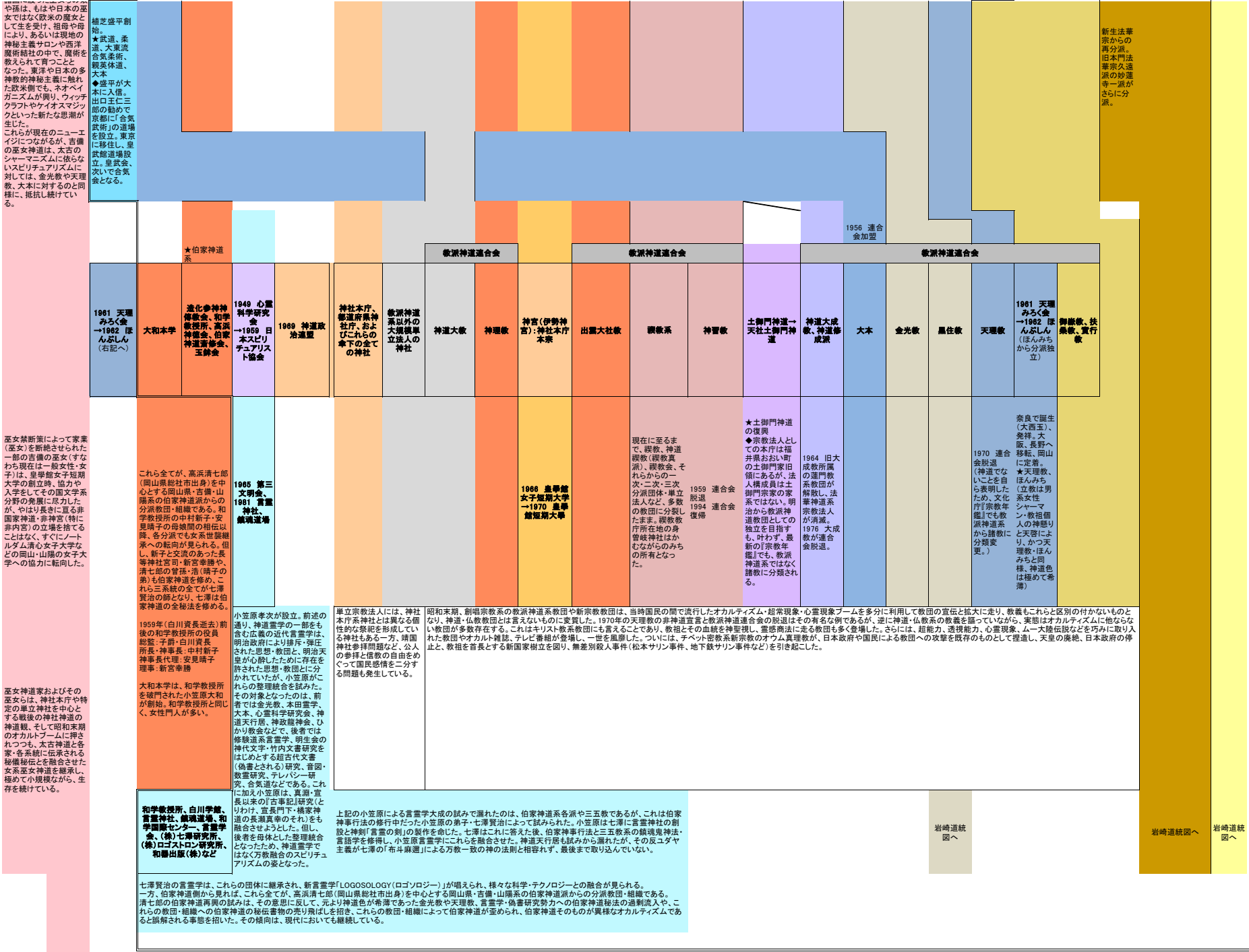
<p>右記のような明治天皇個人、言霊学や神代文字、竹内文書を中心とする偽書・オカルト神道学への興味・心酔は、岡山県・山陽・瀬戸内海沿岸地域の巫女神道にも甚大な影響を与えた。すなわち、秘教神道を取り入れた吉備・山陽の平田神道や、伯家神事秘法系(造化参神神傳教会、和学教授所)や、創唱系の教派神道(天理教、金光教、黒住教)や、本田霊学とその弟子系列(大本、神道天行殿、三五教、ひかり教会、神政龍人会など)や、に所属していた巫女らは、「淫祠邪教」「逆賊」として激しい巫女禁断案に晒された。</p>	<p>伯家神道と神道霊学が結託し、高浜清七郎ら岡山の伯家神道派を中心に、国家神道に抵抗し、生き残りをはかる。次第に、清七郎ら自ら伯家神事を伝授して回った教派神道にも対抗。</p>	<p>出口王仁三郎が本田霊学、伯家鎮魂法、言霊学を修める中、出口なおの神懸り体質は強化されるばかりで、なおは金光教との協力関係を築き、その教義に基づく自身の霊的体験の解釈を始めた。そのため立教前の大本の思想は、金光教の教義と本田霊学の折衷であった。やがて、なおは金光教を離れ、大本は王仁三郎の思想体系そのものとなっていく。</p>	<p>言霊学は、神道を基盤に、修験道や陰陽道の影響を受けて発展し、大石凝真素美に直接学んだ出口王仁三郎や山陽弘道、水谷清、水野清年、朝倉尚綱らが継承したが、結局のところ、当時最も言霊学に心酔したのは明治天皇と昭憲皇太后である。逸話は前述の通りで、弘道が皇太后付の普通道家で、言霊学を天皇・皇太后に紹介したのである。</p> <p>その後、同天皇・皇太后は、言の葉の誠の道、神代文字・竹内文書(偽書とされる)、音韻・数霊、テレパシーなど、あらゆる言霊学・神道学分野に傾倒したが、その関心は本田霊学系の神道霊学と大きく異なり、より非伝統的なおカルト寄りであり、どんな偽書をも一旦は真書と信じ込み、当の言霊学者をともに困惑、仰天させるものであった。</p> <p>自らも、世襲社家廃絶策により律令系神道・伯家神道を排除している初めでの天皇となり、国家神道(非宗教の祭祀)の主宰者であるとして政府によって位置付けられ、これを糧々として受け入れながら、その真の興味の対象は、教派神道からも神道霊学からも異次元のオカルト科学宗教にあった。当時、この事実が政府によって隠蔽された。</p> <p>だが、山本秀道に始まる修験道系言霊学も、御製の「言の葉の誠の道」を信じた山陽弘道・明符父子による神代文字・竹内文書研究も、その他の研究者による古史古伝研究も、武智時三郎の音韻・数霊研究も、西原敬島のテレパシー修行も、全てが天皇の懐らへの庇護と天皇への懐らの厚敬がもたらした産物である。これらの活動の多くは大正・昭和天皇の御代のものであるが、基礎を与えたのは明治天皇である。三天皇自身は、民の思想・教団の是非・正邪・真偽を判断せず、それを実行したのは専ら政府・軍部である。但し、政府・軍部に目を付けられ「淫祠邪教」「逆賊」として排斥・弾圧されたのが、天皇個人が心酔せず忌避した思想・教団ばかりであること、一方で、天皇が好んだ思想・教団は、たとえ異端邪教であっても放任・赦免されたことには、注目すべきである。排斥・弾圧された主な思想・教団は、幽界信仰を強化した一部の平田派、これと手を結んだ門人らにより白川家の世襲禁止後も生き残った伯家神道派流(すなわち、平田高直・種福学取らも教の一種神教化した伯家神事秘法を継承した造化参神神傳教会、和学教授所など)、創唱系の教派神道(天理教、金光教、黒住教)、伯家神事秘法一派の本田霊学とその弟子系列(大本、心霊科学研究会、神政龍神会、神道天行殿、神道本部、古神道仙法教、三五教、ひかり教会など)である。但し、含気道だけは、本田霊学・大本系であるにもかかわらず、皇族・華族・軍人らが支援し、また入門した。これらのほぼ全てが、岡山県・吉備・山陽系の天乙御中主神・国常立尊信仰即ち伯家神道霊学に源流を持ち、主に高浜清七郎とその門人らによって開拓された系統であることは興味深い。明治天皇の極端なおカルト趣味と吉備神道への本能的嫌悪は、吉備とヤマトの太古以来の神道との関係から見ても、決して偶然ではない。引き続き、後述。</p>	<p>【成り立ち】 被相伝者：神道本局長 第一種相伝 完道 高浜清七郎ら岡山の伯家神道派が、神道本局長の稲葉正邦に上記伝授。</p> <p>1886 神道丸山教 金本殿 (神道本局所属) 一職徒、丸山教へ</p> <p>政府が、日本の近代西洋化・軍国主義に反対する丸山教への弾圧を開始。計画中の教派神道から排除する方針を固める。教団は衰退。但し、大日本報徳社に近づき、報徳思想を唱え、神道系教団として存続。</p>	<p>【成り立ち】 被相伝者：伊勢神宮大宮司(岡山)伯家神道藤島子井上正繼系) 第一種相伝は行わず 祭神論争における神宮の態度、天皇の勅諭と出雲神道の歌北の忠告を見た、高浜清七郎ら岡山の伯家神道派が、神道本局長の稲葉正邦に上記伝授。</p> <p>【成り立ち】 被相伝者：出雲 神道大社 教管長(祭神論争で岡山)伯家神道が協力 第一種相伝 完道 高浜清七郎ら岡山の伯家神道派が、神道大社教管長の千家尊福に上記伝授。</p>	<p>【成り立ち】 被相伝者：神道 藤原、大成教 藤原(岡山)伯家神道藤島子井上正繼系) 神道藤原派は第一種相伝は行わず 元より伯家神道系で、神祇官伯家祭祀の正統を主張したのは坂田家だが、長期に渡る正繼門下の分裂を見た高浜清七郎ら岡山の伯家神道派は、神道藤原派には伯家神道の最派奥義たる第一種相伝を行わず。東宮派や、岡本の黒住教と金光教、同郷の出自で親系の神宮教を優先し、上記伝授。</p>	<p>【成り立ち】 被相伝者：神道 菅長 第一種相伝 完道 高浜清七郎ら岡山の伯家神道派が、神宮教管長の野村正業に上記伝授。</p>	<p>【成り立ち】 被相伝者：神道 大成就 御藏教 菅長 第一種相伝 完道 高浜清七郎ら岡山の伯家神道派が、神道大成就・御藏教管長の新田邦光に上記伝授。</p>	<p>【成り立ち】 被相伝者：神道 金光 御藏教 菅長 第一種相伝 完道 高浜清七郎ら岡山の伯家神道派が、川手文治郎の門人らに引き続き上記伝授。</p>	<p>【成り立ち】 被相伝者：神道 藤原 第一種相伝 完道 高浜清七郎ら岡山の伯家神道派が、黒住教信徒に上記伝授。</p>	<p>【成り立ち】 被相伝者：神道 大成教 御藏教 菅長 第一種相伝 完道 高浜清七郎ら岡山の伯家神道派が、神道大成教・御藏教管長の平山省齋に上記伝授。</p>	<p>十三宗五十六派</p>	<p>全てのキリスト教系教団</p>
---	---	---	--	---	---	---	--	--	--	---	--	----------------	--------------------

<p>吉備の神霊学的巫女神道と個々の巫女らは、巫女禁断策の中でも天之御中主神・国常立尊信仰を主眼と置き、更に太古神法のように、幽霊界と地上界を行き来するとされる秘法も継承した。そのため、当初は概ね、地元や畿内の前掲系(黒住教、金光教、天理教、大本など)に親和的であった。しかし、あくまでも復古神道や国家神道ではなく、太古神道のシャーマニズムに依拠することを排除して近代スピリチュアリズムに向かった金光教や天理教に対しては、懐疑的立場をとるようになった。教派神道では黒住教と良く親和し、多くの巫女が祭祀に参加した一方、天理教については神道とは見なさなかった。のちに、天理教自らが神道を認める宣言を出して、教派神道系を脱することになる。但し、天理教の孫分派教団であるほんぶんが岡山を本拠として以降は、一部の巫女が参加している。</p>	<p>1692 大本 (教団組織確立は1698)</p>	<p>1882 和学 教授所</p>		<p>1890 国學院(皇典研究 所内) →国學院大學</p>	<p>1894 神道 教 ◎御詠教から独立 初代宮長、佐野経彦</p>	<p>神宮教の国家 祭祀への関わり(神宮大麻頒布)に批判を生じる</p>	<p>1894 禊教(神 道義素齋) ◎神道本局から 独立</p>	<p>1894 進門教事件(権威商法)による「御神水」販売に對し、内務省が取り締まりを再強化。黒岩 派者創刊の『奥 朝報』なども、進 門教を「強硬神 教」として非難。 神道大成教は 島村光津の神 道教師の資格 を剥奪。) )</p>		<p>大道教会 (分派)</p>		<p>1895 日本教 世軍</p>
<p>のちの神道 天行居集団 によって 欧米に渡り、定着し、 職業魔女化した日本の 巫女ら一派は、サマニ ズム(悪魔主義)や神智 学、人智学などによって 日本(近代神社神道・国 家神道)を呪う儀式を 始めていた。その際、吉 備の秘教神道の巫女ら も、一時帰郷した元盟友 の巫女らに、あくまでも 神道儀式の立場からでは あるが、秘かに協力し た。共に吉備の懸崖や 雲山で魔術を行い、ある いは、一時渡欧して西洋 魔術を学んだ。</p>	<p>★古神道、金光教、伯家 神事秘法(高浜清七郎・岡 山・山陽派)、鎮魂降神、 寄神学、本道学系、言 霊学、修験道、神道大成 教、キリスト教 (立教は二次教祖である 男系女性シャーマン・出口 なおと婿稱・出口王仁三郎 個々人の神懸りと天啓に よるとされる。出口なおは 開祖とも。但し、教団化・ 組織化は専ら王仁三郎に よる。)</p> <p>◆「大本神論」、『霊界物語』、国常立尊復元論、終 末論、宮中関係者や陸海 軍将校が共鳴し参加。第 一次・第二次大本事件に より、意識的修正を受け、 一部は吉備・山陽の巫 女神道に入り、秘伝化。</p>	<p>高浜清七郎 が創設、娘婿 の宮内忠正 が整備 ★伯家神道、 言霊学系 ◆伯家神事 秘法の維持 継承</p>	<p>天理教の急 拡大により、 本局教師の 三分の二を 天理教教師 が占める。( 右記へ)</p>	<p>1898 全国神職会 一大日本神職会</p>	<p>1895 神道同志会</p>	<p>神道同志会</p>	<p>神道同志会</p>	<p>神道同志会</p>	<p>神道同志 会</p>	<p>大道協会 が神道大成 教へ所属(教 会側は分派 でなく、寛 大な天理教 からの離脱と する。)</p>	<p>神道同志会</p>	<p>妙満寺 派 →1896 原本法 華宗 本成寺 派 →1899 法華宗 八品派 →1898 本門法 華宗 本成寺 派 →1898 本妙法 華宗</p>
<p>のちの神道 天行居集団 によって 欧米に渡り、定着し、 職業魔女化した日本の 巫女ら一派は、サマニ ズム(悪魔主義)や神智 学、人智学などによって 日本(近代神社神道・国 家神道)を呪う儀式を 始めていた。その際、吉 備の秘教神道の巫女ら も、一時帰郷した元盟友 の巫女らに、あくまでも 神道儀式の立場からでは あるが、秘かに協力し た。共に吉備の懸崖や 雲山で魔術を行い、ある いは、一時渡欧して西洋 魔術を学んだ。</p>	<p>のちの神道 天行居集団 によって 欧米に渡り、定着し、 職業魔女化した日本の 巫女ら一派は、サマニ ズム(悪魔主義)や神智 学、人智学などによって 日本(近代神社神道・国 家神道)を呪う儀式を 始めていた。その際、吉 備の秘教神道の巫女ら も、一時帰郷した元盟友 の巫女らに、あくまでも 神道儀式の立場からでは あるが、秘かに協力し た。共に吉備の懸崖や 雲山で魔術を行い、ある いは、一時渡欧して西洋 魔術を学んだ。</p>	<p>重術・魔術団 体 (太皇道、岡 田式神道法、 霊界儀法、 霊学道場)</p>	<p>◆神社非宗教論 1898 神祇官復元運動、 神祇特別官設置運動に より、全国神職会(のち大 日本神祇会)を組織。 1900年、社事務局から神社 局を分離設置。国家神道 が名実共に確立し、神社 局がこれを保護(事実上 の管理統制)。神官は公 務員とされ、布教活動は 禁止。これ以降、「国家神 道」の語が頻用される。社 事務局は宗教局へ改組。</p>	<p>1899 神道懇話会</p>	<p>1899 神道懇話会</p>	<p>神宮教が解散 神宮教会 →神宮學舎 神道同志会脱 退 神宮教院大本 局および神宮 學舎本院に よる神宮道場</p>	<p>1899 神道懇話会</p>	<p>1899 神道懇話会</p>	<p>1899 神道懇話 会</p>	<p>神道本局 の最大教 派となる。( 本局教師 数30,000人 のうち、天 理教師数 20,000人 強)</p>	<p>神道懇話会</p>	<p>日蓮宗 奥門派 →1899 本門宗</p>
<p>友清欽真 が、大本信 者・浅野和 三郎の勧め で大本に入信 するも、王仁 三郎の教義 に失望し、わ ずか一年で 脱退。先行 者の脱退者ら と合流。長澤 雄雄に本田 雲学と伯家 神事秘法を 学ぶ。</p>	<p>1908 神道大成教 重術教会 (神道大成 教所屬) 御詠教大本 教会(御詠 教所屬)、 食明齋學舎 →大日本秘 教會</p>	<p>田中守平、岡 田虎二郎、松 本道別が靈 術団体を創 始。松本道別 に香川出身 の玄学・老荘 思想研究家 の清水宗徳 が入門。</p>	<p>1908 全神教 大日本世 界教、秘傳 教(みいつ かい)</p>	<p>天理教独立 により、規模 が矮小化</p>	<p>1912 神道各教派聯合会</p>	<p>1912 神道各教派聯合会</p>	<p>1912 神道各教派聯合会</p>	<p>1912 神道各教派聯合会</p>	<p>1908 天理教 ◎神道本 局から独立</p>	<p>1908 禊教天 都教会 (御詠教所 屬) →皇祖皇 太神宮天 降教</p>	<p>一天都教 会は竹内 巨磨創始。 ◆竹内文 献(文書)、 ヒビイロカ ネ</p>	<p>公娼廃止 運動(廃娼 運動)、純 潔運動を めくって、 同郷の巫 女らと意見 が対立(左 記)</p>
<p>川面凡児 が創始。 ★儒学、仙 民権運動 ◆親(神社 神道)にお ける禊作法 の確立)、鎮 魂一貫の 祖神奉斎、 神宮奉斎 會会長・今 泉定助の 支持を受け たことを機 に、川面の 禊作法は 神社神道 における中 心的な禊作 法として確 立し、全国 各地に禊 行事の流 行をもたら した。</p>	<p>1920 精神 會 →1921 天 行曆</p>	<p>川面凡児 が創始。 ★儒学、仙 民権運動 ◆親(神社 神道)にお ける禊作法 の確立)、鎮 魂一貫の 祖神奉斎、 神宮奉斎 會会長・今 泉定助の 支持を受け たことを機 に、川面の 禊作法は 神社神道 における中 心的な禊作 法として確 立し、全国 各地に禊 行事の流 行をもたら した。</p>	<p>1924 日本大學神道講 義・神道義學會 (神道教師の再教育策)</p>	<p>1924 日本大學神道講 義・神道義學會 (神道教師の再教育策)</p>	<p>1924 日本大學神道講 義・神道義學會 (神道教師の再教育策)</p>	<p>1924 日本大學神道講 義・神道義學會 (神道教師の再教育策)</p>	<p>1924 日本大學神道講 義・神道義學會 (神道教師の再教育策)</p>	<p>1924 日本大學神道講 義・神道義學會 (神道教師の再教育策)</p>	<p>1924 日本大學神道講 義・神道義學會 (神道教師の再教育策)</p>	<p>1924 日本大學神道講 義・神道義學會 (神道教師の再教育策)</p>	<p>1924 日本大學神道講 義・神道義學會 (神道教師の再教育策)</p>	<p>重華會 →立正 安福會 →1914 圓徒會 (本化妙 宗)</p>
<p>1906末、岡田で山室軍平らにより日本救世軍(救世軍の日本組織)が創設され、社会福祉事業、公娼廃止運動(廃娼運動)、純潔運動。一夫一婦制運動が展開されたことに伴い、岡山の巫女らの間でも、キリスト教・教</p>	<p>1921年、第一次大本事件により改称。 岡本天明(岡山県浅口郡玉島出身)が大本・出口王仁三郎と交流。第一次大本事件に巻き込まれて失職。</p>	<p>神仏分離策、 廃仏毀釈</p>	<p>1924 日本大學神道講 義・神道義學會 (神道教師の再教育策)</p>	<p>1924 日本大學神道講 義・神道義學會 (神道教師の再教育策)</p>	<p>1924 日本大學神道講 義・神道義學會 (神道教師の再教育策)</p>	<p>1924 日本大學神道講 義・神道義學會 (神道教師の再教育策)</p>	<p>1924 日本大學神道講 義・神道義學會 (神道教師の再教育策)</p>	<p>1924 日本大學神道講 義・神道義學會 (神道教師の再教育策)</p>	<p>1924 日本大學神道講 義・神道義學會 (神道教師の再教育策)</p>	<p>1924 日本大學神道講 義・神道義學會 (神道教師の再教育策)</p>	<p>1924 日本大學神道講 義・神道義學會 (神道教師の再教育策)</p>	<p>田中智学 が創始。 ★日蓮 宗、法華 宗 ◆日蓮主 義、八幡 一宇、国 性芸術</p>

<p>1925 円応法修会 →1931 円応修法会 (右記へ)</p>	<p>世軍の純潔思想の妥当性や、これらと巫女神道における純潔の伝統との整合性が検証された。しかしながら、当時は山室らの運動は、他のキリスト教会の主張と同じく、結婚の前後で性交渉の善悪を区別し、女性養護を掲げつつ、またそれ故に、とりわけ女性の婚前交渉を厳しく叱咤・懲戒し、婚前交渉済の女子や売春婦を下層民、哀れな女と見下す傾向にあった。</p> <p>一方、巫女神道における純潔思想は、男神との関係(合一体験)に連関して生じ、実践されてきたものであり(男神との関係は全く純潔でない)、元より、近世までの日本女性一般の間では、人間男性(のみならず老若男女)との関係に関する禁忌・規範は何ら存在していない。</p> <p>岡山の巫女らは、自分たちの純潔の伝統が一神教の勤善懲惡論とは無関係であり、公娼・私娼に対して懲罰感情を持たず、むしろ連携することもあったことから、同郷発祥の日本教世軍に同調、改宗した純潔巫女は極めて少ない。</p>	<p>1923 心靈科學研究会、1929 中京心靈協會、大阪心靈科學協會、東京心靈科學協會 →1946 日本心靈科學協會</p> <p>海軍機関学校の英語教官・淺野和三郎が、靈的体験を機に、靈学研究に熱心な大本に入信。第一次大本事件における弾圧を機に教団を離脱し、心靈科學研究会を創設。賛同者らが各大都市部に心靈研究団体を設立。次兄の淺野主音が継承。和三郎と共に大本を離れた谷口雅春は、万教一致の生長の家を創始。大本信者・中野興之助が第二次大本事件に關わり、入盟。</p>	<p>1925 天理研究会</p> <p>大西愛治郎が創始</p>	<p>1925 円応法修会 →1931 円応修法会</p> <p>シャーマン・深田千代子が天啓体験によって修法を開始。弟子らが法修会設立。修法会に改稱。臨濟宗妙心寺派靈雲寺(深田家の菩提寺)の住職・林誠道が会長に就任。</p>		
<p>兵庫のシャーマンの深田千代子が教主。</p>	<p>1927~52 ユダヤ陰謀論・反ユダヤ主義・「靈的国防」論に基づく集団神靈儀式を實踐。武力でなく靈力による国防を唱えたため、政府・大本宮はこれを「軍国主義による国防を唱えたため、政府・大本宮はこれを『軍国主義による国防を唱えたため、政府・大本宮はこれをやより邪視・弾圧。』</p> <p>1934 神政權神会</p> <p>大本・出口王仁三郎に失望して脱退した矢野祐太郎が創始。妻・矢野ソンの霊媒能力を使った実験により『神靈密書』を著し、宮家や同志に配布したところ、竹田宮家や北白川宮家の女人らの勧めで天皇へ御嘉納。</p>	<p>1934 神政權神会</p> <p>大本・出口王仁三郎に失望して脱退した矢野祐太郎が創始。妻・矢野ソンの霊媒能力を使った実験により『神靈密書』を著し、宮家や同志に配布したところ、竹田宮家や北白川宮家の女人らの勧めで天皇へ御嘉納。</p>	<p>1930~32 第一次天津教弾圧事件</p>	<p>1933 円応報恩会</p> <p>会長・伴仲実美</p>		
<p>昭和時代</p> <p>上記のような動向は、山陽発祥の社会福祉事業においても同様であった。</p> <p>神戸出身のキリスト者で、日本初かつ日本最大の生活協同組合「コープこうべ」(神戸購買組合が由来)の創設者である賀川豊彦は、貧民救済運動、被差別部落解放運動、無賴眾運動も行ったが、これは賀川が優生学に傾倒し、貧民や病民、癩病患者を「遠征的に劣等で、キリスト教によって救われるべき(優生学によって人種改良されるべき)可哀憐な人々」と見なしていたからである。</p> <p>賀川らの運動は、結局は貧民・部落民・癩病患者淘汰論・排斥論であり、賀川自ら差別表現・暴言を多用して運動を展開した。とりわけ、癩病患者に対する賀川の差別と排除願望は徹底しており、療養所への患者の隔離・強制収容の強行を主張し、慰問を口実としてキリスト教を強引に布教した。</p> <p>国内初の国立療養所は岡山の長島養生園であり、無賴眾運動・患者の隔離運動に同調の巫女らが多数巻き込まれた。巫女らは次第に、同業、医師、賀川らが推進するこれらの運動の偽善と差別主義に気づき、厳しく抵抗した。</p> <p>また、1947年、賀川が『婦人公論』で、米兵による強姦の被害女性性を「闇の女に墮ちた」「欠陥女性、売春婦を(ハンパン)・精神分裂病患者」と侮蔑した際にも、岡山、兵庫など山陽の一部の巫女らが善しく反抗し、賀川や賀川と同様の主張を展開した日本のキリスト教団に対し、呪詛の秘儀を執り行っている。</p>	<p>1934 昭和神靈会</p> <p>軍人、右翼団体と交流し、国政に介入。</p> <p>1934 神道大教</p> <p>本田親徳から伝授された靈学と伯家鏡魂法を出口王仁三郎に伝授した神靈学者・月見星福荷神社宮司の長澤雄樹に、大本の信者・中野興之助が副会長に就任。</p>	<p>1938 日本大學皇道學院</p> <p>1934 敬派神道連合会</p> <p>1936 皇道新修会 →1940 宗教雑誌(すめらぎ、すめらぎ)創</p> <p>1940 宗教団体系法行、神社局を神祇院へ改組</p> <p>神道大教</p> <p>世襲を断絶された子爵となった白川真長が会長に、伯家神道を学んだ鬼倉足日公が理事長に、伊勢皇大神宮大宮司、三笠戸和光の孫で宮中顧問官の敬光と、平田篤胤の曾孫で神田明神宮司の平田盛胤が副会長に就任。</p>	<p>1934 敬派神道連合会</p>	<p>1934 敬派神道連合会</p>	<p>1936 天理本道</p> <p>1935~44 第二次天津教弾圧事件</p>	<p>1941 日蓮宗(三派合同) 1941 法華宗 1941 本化正宗</p>

<p>GHQの神道指令により、神社、神道の国家管理は廃され、吉備の巫女神道も国家・神社神道からの弾圧は受けなくなったが、今度はGHQによる日本の危険かつ異様な习俗の研究の対象とされた。天皇崇拝や鬼畜米英思想、戦勝祈願祭祀への巫女神道の関与が疑われたが、政府、教部省、大教院、神道事務局などによる巫女弾圧が明らかになった一方、巫女の戦争関与は見当たらず、無罪放免に終わった。</p> <p>巫女らは今度は、反神社本庁・反神道政治連盟の立場から、その現代神社神道に対する巫女神道の霊的防衛を唱える立場となった。</p> <p>山口での神道天行居の設立以降、吉備の巫女もその霊的国防の集団秘術訓練に参加している。しかし、巫女らは国粋主義的・民族主義的思想には協力しておらず、やはり霊的自衛・呪詛の対象としているのは、日本政府や神社本庁である。ユダヤ陰謀論を唱える神道天行居は、母米の反ユダヤ系神秘主義から当然何とも同盟を求められている。</p>	<p>家・巫女の転覆を謀る陰謀結社、「道鏡以来の逆賊」とされ、活動停止となる。</p> <p>★伯家神事秘法(高浜清七郎・岡山・山陽派)、本田霊学系</p>	<p>の助と大本の元信者・友清、友清は共に、本田霊学と伯家秘法のさらなる神霊学的解釈を進め、神道霊学宗教立教の準備を進める。姉妹の直接の門人ではないが、岡本天明も立教計画に加わる。</p>	<p>国家神道(事実上の神道国教化)の確立</p>	<p>★伊勢内宮神道・平田神道・伯家神道の概念、斎王・倭姫命信仰 ◆但し、伯家神道の奥深奥義たる第一種相伝は行われず。</p> <p>神宮皇學館大学 →皇學館大学</p>									<p>宗教団体法施行により、旧日蓮宗(一致派)、本門宗(富士門流、勝劣派)、顕本法華宗(白竹門流、勝安派)が合同し、日蓮宗に。本門法華宗、本妙法華宗、法華宗が合同し、法華宗に。不受不能派門流と不受不能派が合同し、本化正宗に。旧日蓮宗が日蓮宗、法華宗、本化正宗の三派に整理統合される。</p>
<p>神道天行居</p>	<p>★復古神道、伯家神事秘法(高浜清七郎・岡山・山陽派)、本田霊学系、太古神法、斎王神道、密教 ◆元大本系、のちに反大本、霊的国防、ユダヤ陰謀論(武力でなく霊力による国防を唱え、政府・大本堂はこれを引き続き邪視・弾圧)。清水宗徳も参加。巫女に加え、男子の親(おかんぎ)の霊力をも重視。</p>	<p>1945 愛憎苑</p>	<p>1945 神道指令(GHQ)</p>	<p>1946 ストラ歌 →1947 すめら歌</p>	<p>1946 愛憎苑</p>	<p>1946 ストラ歌 →1947 すめら歌</p>	<p>1946 愛憎苑</p>	<p>1946 ストラ歌 →1947 すめら歌</p>	<p>1946 愛憎苑</p>	<p>1946 ストラ歌 →1947 すめら歌</p>	<p>1946 愛憎苑</p>	<p>1946 ストラ歌 →1947 すめら歌</p>	<p>1946 愛憎苑</p>
<p>★復古神道、伯家神事秘法(高浜清七郎・岡山・山陽派)、本田霊学系、太古神法、斎王神道、密教 ◆元大本系、のちに反大本、霊的国防、ユダヤ陰謀論(武力でなく霊力による国防を唱え、政府・大本堂はこれを引き続き邪視・弾圧)。清水宗徳も参加。巫女に加え、男子の親(おかんぎ)の霊力をも重視。</p>	<p>1945 愛憎苑</p>	<p>1945 神道指令(GHQ)</p>	<p>1946 ストラ歌 →1947 すめら歌</p>	<p>1946 愛憎苑</p>	<p>1946 ストラ歌 →1947 すめら歌</p>	<p>1946 愛憎苑</p>	<p>1946 ストラ歌 →1947 すめら歌</p>	<p>1946 愛憎苑</p>	<p>1946 ストラ歌 →1947 すめら歌</p>	<p>1946 愛憎苑</p>	<p>1946 ストラ歌 →1947 すめら歌</p>	<p>1946 愛憎苑</p>	<p>1946 ストラ歌 →1947 すめら歌</p>
<p>★復古神道、伯家神事秘法(高浜清七郎・岡山・山陽派)、本田霊学系、太古神法、斎王神道、密教 ◆元大本系、のちに反大本、霊的国防、ユダヤ陰謀論(武力でなく霊力による国防を唱え、政府・大本堂はこれを引き続き邪視・弾圧)。清水宗徳も参加。巫女に加え、男子の親(おかんぎ)の霊力をも重視。</p>	<p>1945 愛憎苑</p>	<p>1945 神道指令(GHQ)</p>	<p>1946 ストラ歌 →1947 すめら歌</p>	<p>1946 愛憎苑</p>	<p>1946 ストラ歌 →1947 すめら歌</p>	<p>1946 愛憎苑</p>	<p>1946 ストラ歌 →1947 すめら歌</p>	<p>1946 愛憎苑</p>	<p>1946 ストラ歌 →1947 すめら歌</p>	<p>1946 愛憎苑</p>	<p>1946 ストラ歌 →1947 すめら歌</p>	<p>1946 愛憎苑</p>	<p>1946 ストラ歌 →1947 すめら歌</p>
<p>★復古神道、伯家神事秘法(高浜清七郎・岡山・山陽派)、本田霊学系、太古神法、斎王神道、密教 ◆元大本系、のちに反大本、霊的国防、ユダヤ陰謀論(武力でなく霊力による国防を唱え、政府・大本堂はこれを引き続き邪視・弾圧)。清水宗徳も参加。巫女に加え、男子の親(おかんぎ)の霊力をも重視。</p>	<p>1945 愛憎苑</p>	<p>1945 神道指令(GHQ)</p>	<p>1946 ストラ歌 →1947 すめら歌</p>	<p>1946 愛憎苑</p>	<p>1946 ストラ歌 →1947 すめら歌</p>	<p>1946 愛憎苑</p>	<p>1946 ストラ歌 →1947 すめら歌</p>	<p>1946 愛憎苑</p>	<p>1946 ストラ歌 →1947 すめら歌</p>	<p>1946 愛憎苑</p>	<p>1946 ストラ歌 →1947 すめら歌</p>	<p>1946 愛憎苑</p>	<p>1946 ストラ歌 →1947 すめら歌</p>
<p>★復古神道、伯家神事秘法(高浜清七郎・岡山・山陽派)、本田霊学系、太古神法、斎王神道、密教 ◆元大本系、のちに反大本、霊的国防、ユダヤ陰謀論(武力でなく霊力による国防を唱え、政府・大本堂はこれを引き続き邪視・弾圧)。清水宗徳も参加。巫女に加え、男子の親(おかんぎ)の霊力をも重視。</p>	<p>1945 愛憎苑</p>	<p>1945 神道指令(GHQ)</p>	<p>1946 ストラ歌 →1947 すめら歌</p>	<p>1946 愛憎苑</p>	<p>1946 ストラ歌 →1947 すめら歌</p>	<p>1946 愛憎苑</p>	<p>1946 ストラ歌 →1947 すめら歌</p>	<p>1946 愛憎苑</p>	<p>1946 ストラ歌 →1947 すめら歌</p>	<p>1946 愛憎苑</p>	<p>1946 ストラ歌 →1947 すめら歌</p>	<p>1946 愛憎苑</p>	<p>1946 ストラ歌 →1947 すめら歌</p>
<p>★復古神道、伯家神事秘法(高浜清七郎・岡山・山陽派)、本田霊学系、太古神法、斎王神道、密教 ◆元大本系、のちに反大本、霊的国防、ユダヤ陰謀論(武力でなく霊力による国防を唱え、政府・大本堂はこれを引き続き邪視・弾圧)。清水宗徳も参加。巫女に加え、男子の親(おかんぎ)の霊力をも重視。</p>	<p>1945 愛憎苑</p>	<p>1945 神道指令(GHQ)</p>	<p>1946 ストラ歌 →1947 すめら歌</p>	<p>1946 愛憎苑</p>	<p>1946 ストラ歌 →1947 すめら歌</p>	<p>1946 愛憎苑</p>	<p>1946 ストラ歌 →1947 すめら歌</p>	<p>1946 愛憎苑</p>	<p>1946 ストラ歌 →1947 すめら歌</p>	<p>1946 愛憎苑</p>	<p>1946 ストラ歌 →1947 すめら歌</p>	<p>1946 愛憎苑</p>	<p>1946 ストラ歌 →1947 すめら歌</p>
<p>★復古神道、伯家神事秘法(高浜清七郎・岡山・山陽派)、本田霊学系、太古神法、斎王神道、密教 ◆元大本系、のちに反大本、霊的国防、ユダヤ陰謀論(武力でなく霊力による国防を唱え、政府・大本堂はこれを引き続き邪視・弾圧)。清水宗徳も参加。巫女に加え、男子の親(おかんぎ)の霊力をも重視。</p>	<p>1945 愛憎苑</p>	<p>1945 神道指令(GHQ)</p>	<p>1946 ストラ歌 →1947 すめら歌</p>	<p>1946 愛憎苑</p>	<p>1946 ストラ歌 →1947 すめら歌</p>	<p>1946 愛憎苑</p>	<p>1946 ストラ歌 →1947 すめら歌</p>	<p>1946 愛憎苑</p>	<p>1946 ストラ歌 →1947 すめら歌</p>	<p>1946 愛憎苑</p>	<p>1946 ストラ歌 →1947 すめら歌</p>	<p>1946 愛憎苑</p>	<p>1946 ストラ歌 →1947 すめら歌</p>
<p>★復古神道、伯家神事秘法(高浜清七郎・岡山・山陽派)、本田霊学系、太古神法、斎王神道、密教 ◆元大本系、のちに反大本、霊的国防、ユダヤ陰謀論(武力でなく霊力による国防を唱え、政府・大本堂はこれを引き続き邪視・弾圧)。清水宗徳も参加。巫女に加え、男子の親(おかんぎ)の霊力をも重視。</p>	<p>1945 愛憎苑</p>	<p>1945 神道指令(GHQ)</p>	<p>1946 ストラ歌 →1947 すめら歌</p>	<p>1946 愛憎苑</p>	<p>1946 ストラ歌 →1947 すめら歌</p>	<p>1946 愛憎苑</p>	<p>1946 ストラ歌 →1947 すめら歌</p>	<p>1946 愛憎苑</p>	<p>1946 ストラ歌 →1947 すめら歌</p>	<p>1946 愛憎苑</p>	<p>1946 ストラ歌 →1947 すめら歌</p>	<p>1946 愛憎苑</p>	<p>1946 ストラ歌 →1947 すめら歌</p>





巫女神道、巫女神道、巫女神道、巫女神道

女系巫女神道家(および巫女)の所属先および巫女の供給先の教派・教団

明治政府による巫女禁断・弾圧策に基づく強制配属先(供給先)と、これに反発して秘儀秘伝化(秘教神道化)し戦後も残存した場合の配属先(供給先)の教派・教団。但し、令和時代開始時点で残存しており、各教派・教団の祭祀に呼ばれて生計の全部または一部を立てる女系巫女神道家に限る。

Flowchart table showing the lineage and affiliation of female shamanism. It branches from 'Ancient Origin' into 'Ancient Shrine' and 'Ancient Shrine (Mts. Tsukuba, Mt. Miya, Mt. Kashiwa)'. It details various sects like 'Shinto', 'Shintohism', and 'Shintoism', and identifies major lineages such as 'Yamato', 'Ise', and 'Mikoto'. It also notes the influence of 'Shintoism' and 'Shintoism' on modern practices.

吉備の多くの女系巫女神道家は以下を主張。一 ヤマトの魂輪(特殊聯合・特殊派)、ヤマトの神社(総社)、ヤマト日本(古代吉備国)、ヤマトの土着民族、ヤマトの氏族等は、いずれも吉備が発祥地・源流である。一 最近の発掘調査により、一部は史実であることが判明しつつある。吉備とヤマトの相關図を見よ。

